

SWCCグループ

2021年3月期 第3四半期
決算説明資料



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

March 12, 2021

<https://www.swcc.co.jp>



本日の説明項目

**1. 2021/3期 第3四半期決算報告
通期業績計画**

**2. 中期経営計画
「Change SWCC2022」進捗**

3. Appendix セグメント別戦略

4. Appendix プレスリリース情報



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

<https://www.swcc.co.jp>



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

2021/3期 第3四半期決算報告
通期業績計画

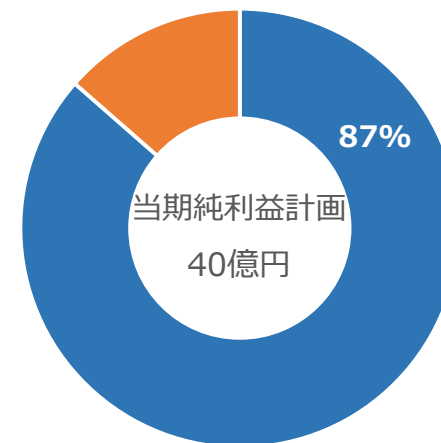
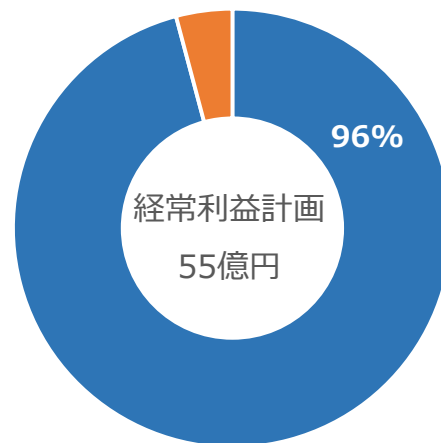
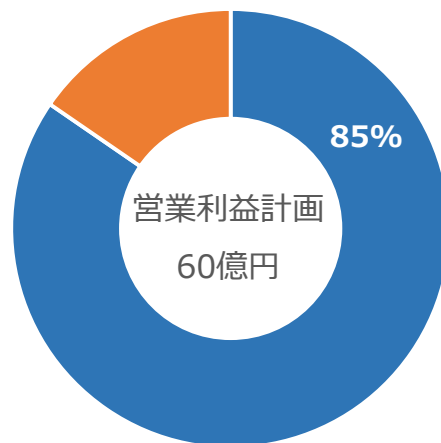
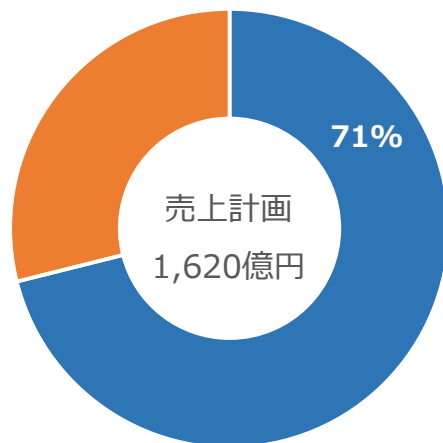
<https://www.swcc.co.jp>

2021/3期 第3四半期決算総括

業績：3Qは2Qからの回復基調が継続

- ・ **エネルギー・インフラ事業**：電力インフラ向け需要は当初の想定どおりに推移。建設関連向け需要は2Q以降回復基調が継続するも、前年同期の需要には至らず。
- ・ **通信・産業用デバイス事業**：通信インフラ向けは5G需要等により徐々に持ち直した。産業用デバイスは中国を中心に回復が見られた。
- ・ **電装・コンポーネンツ事業**：重電向け汎用巻線の需要低迷が継続したことから減収となったが、利益面では自動車向け高機能製品の需要が回復し、増益となった。

3Q進捗率（売上高/営業利益/経常利益/四半期純利益） ※対期初計画



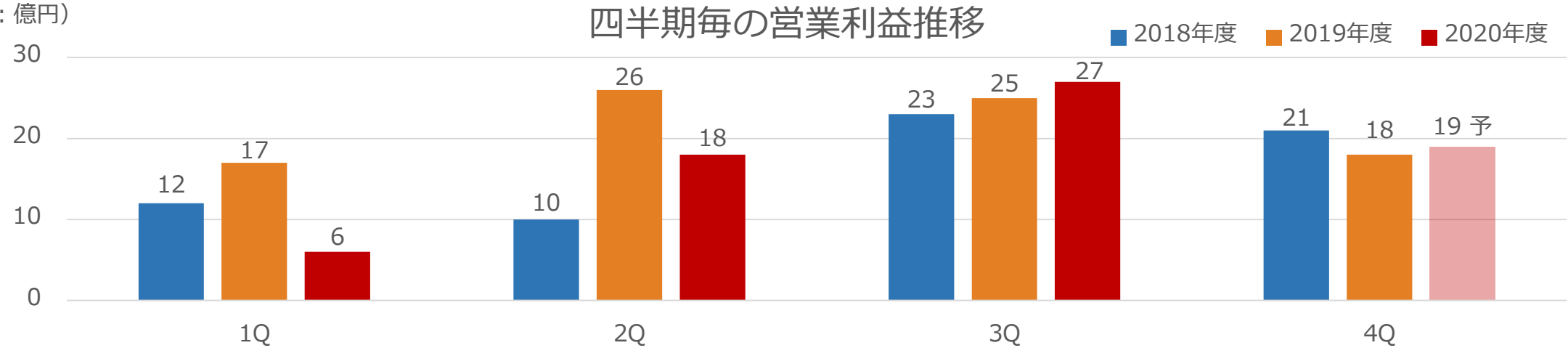
2021/3期 通期業績予想と配当予想修正

- 新型コロナウイルスの影響が想定より限定的であったため、2月3日に連結業績予想と配当予想を修正。
- 最終利益については通信ケーブル事業等の国内拠点再編の構造改革による特別損失を見込んだ。

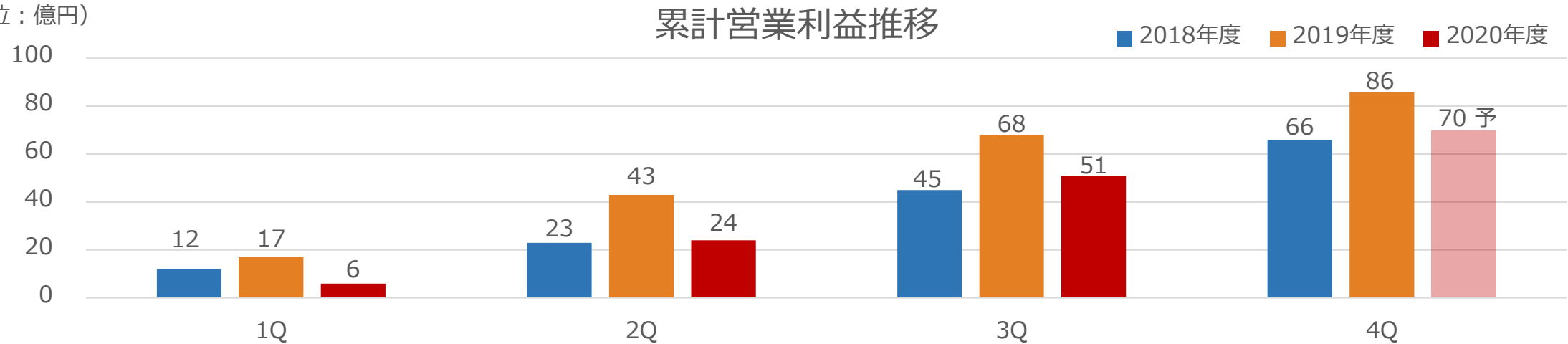
(単位：億円)	2019年度 実績	構成 %	2020年度 5/15計画	構成 %	2020年度 修正計画	構成 %	修正額	修正幅 %
売上高	1,711	-	1,620	-	1,620	-	-	-
営業利益	86	5.0%	60	3.7%	70	4.3%	+10	+16.7%
経常利益	79	4.6%	55	3.4%	70	4.3%	+15	+27.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	55	3.2%	40	2.5%	42	2.6%	+2	+5.0%
配当金/配当性向	15円	8.2%	15円	11.2%	20円	14.2%	+5円	-

四半期業績推移（営業利益：過去3期比較）

(単位：億円)



(単位：億円)



セグメント情報

- ・ コロナ禍の影響を受け、1Qで大幅な減収・減益、2Qから回復基調となり3Qも継続。

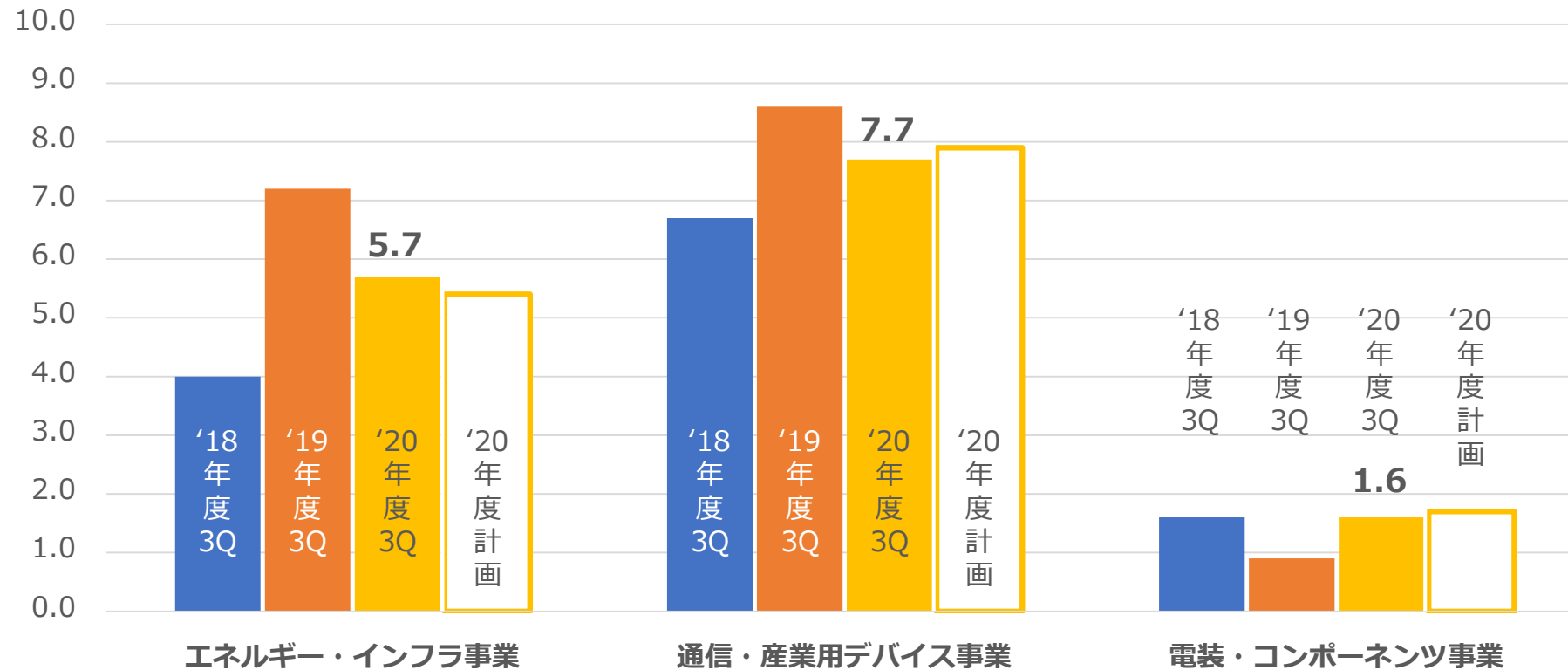
(単位：億円)

	2018年度 3Q 実績		2019年度 3Q 実績		2020年度 3Q 実績	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)
エネルギー ・インフラ	632	25 (4.0%)	667	48 (7.2%)	618	35 (5.7%)
通信・産業用 デバイス	249	17 (6.7%)	229	20 (8.6%)	197	15 (7.7%)
電装・ コンポーネンツ	399	6 (1.6%)	362	3 (0.9%)	304	5 (1.6%)
その他 (内新規事業)	37 (22)	△3 (△2)	36 (22)	△4 (△1)	33 (23)	△4 (△0)
合 計	1,318	45 (3.4%)	1,293	68 (5.2%)	1,152	51 (4.4%)

セグメント情報（セグメント利益率推移）

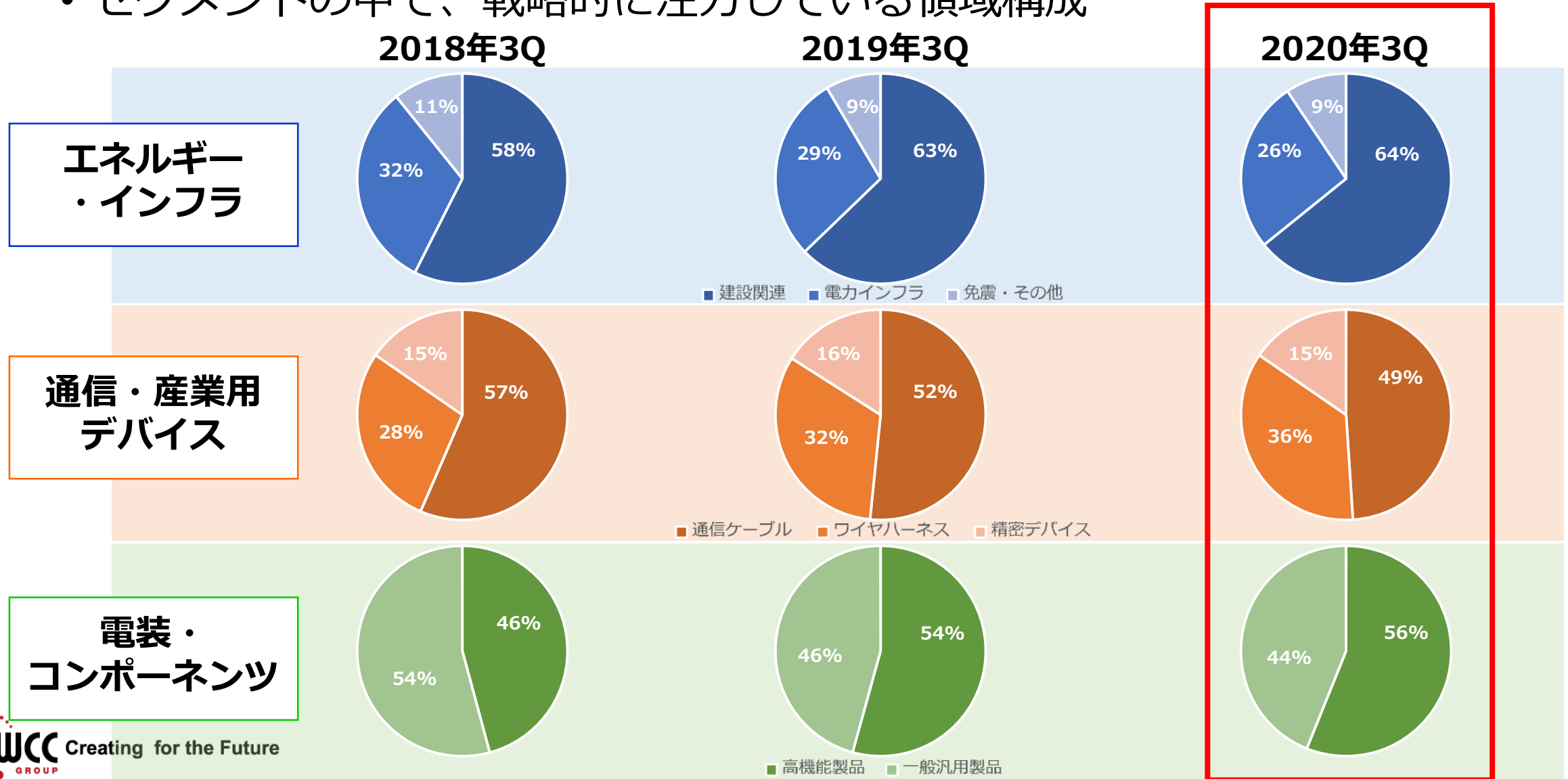
- 当社は、継続的な構造改革の推進により、セグメント毎の収益力改善に向け、構造改革を進めております。

（セグメント利益率％）




セグメント内 売上高構成

- セグメントの中で、戦略的に注力している領域構成



市場環境 今後の見通し

- 下期の回復基調は継続。感染症の再拡大により予断を許さない状況。

	市場環境		施策対応
エネルギー ・インフラ	建設		<ul style="list-style-type: none"> • 需要変動への生産体制対応 • 再生可能エネルギーの系統連系ビジネスモデルの強化 • 制振制音事業の構造改革推進
	電力インフラ		
	免震・その他		
通信・産業用 デバイス	通信ケーブル		<ul style="list-style-type: none"> • 5G立上がり、GIGAスクール構想等の需要捕捉 • 新たなサプライチェーンと地産地消(中国、東南アジア)への構造改革 • ワイヤハーネスの新体制始動と海外投資の強化
	ワイヤハーネス		
	精密デバイス(複写機用)		
電装・ コンポーネンツ	高機能製品(自動車等)		<ul style="list-style-type: none"> • 自動車産業の構造変化、環境配慮型自動車割合増加に向けて生産体制を增強
	一般汎用製品		
その他 (内新規事業)	IoTソリューション		<ul style="list-style-type: none"> • テレワーク対応システム商材増強 • 遠隔医療やスマートワーク化の加速によるメディカル向け部材、システム・サービスの需要増加に対応した拡販強化
	インダストリ(医療等)		



中期経営計画
「Change SWCC2022」進捗



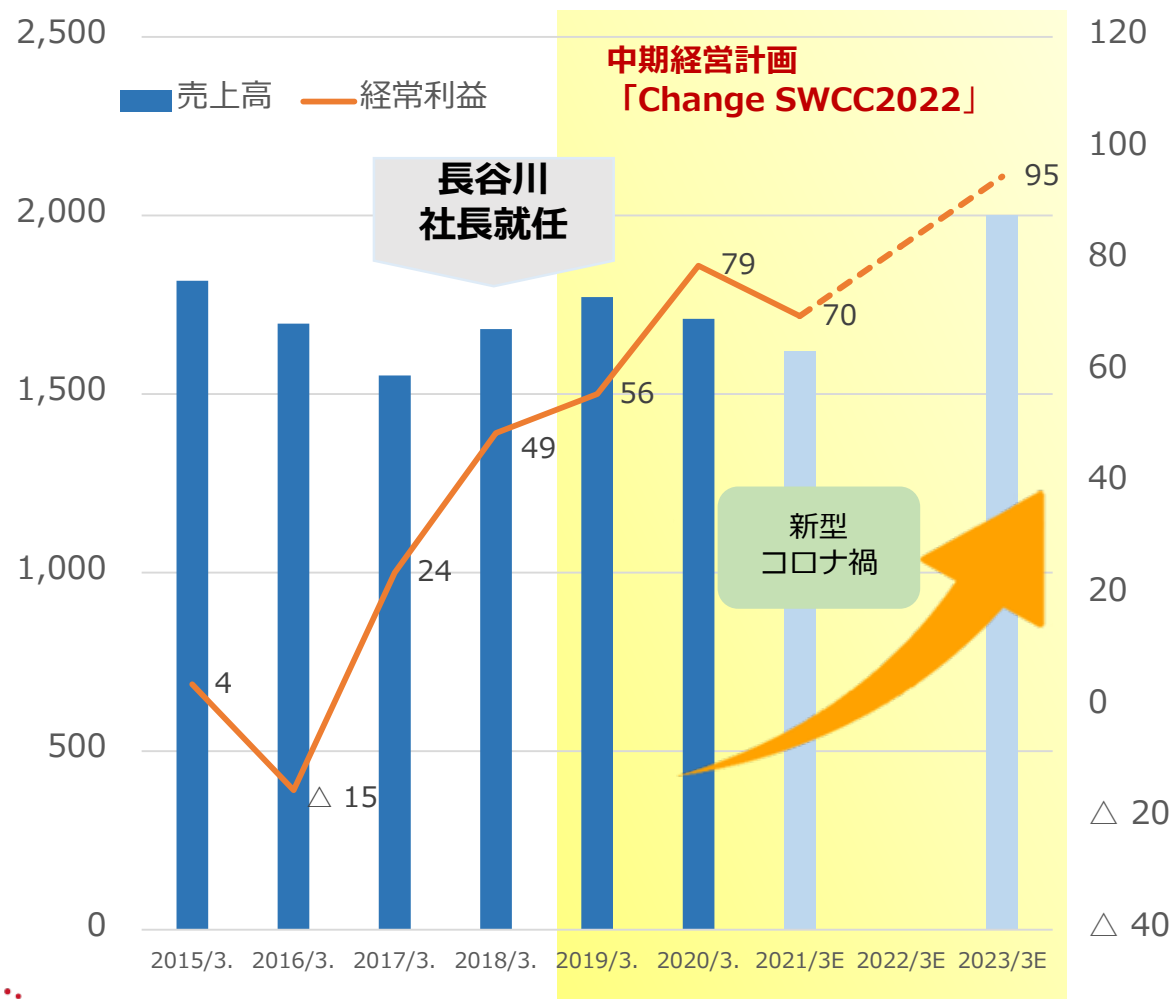
Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

<https://www.swcc.co.jp>

継続した構造改革の推進

(単位：億円)

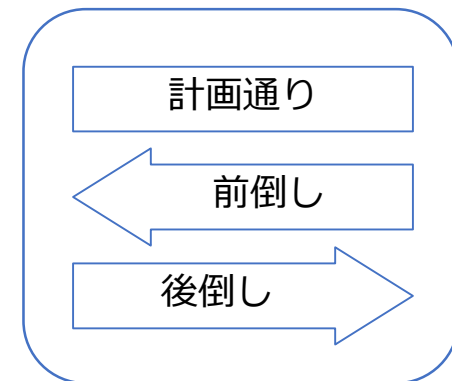
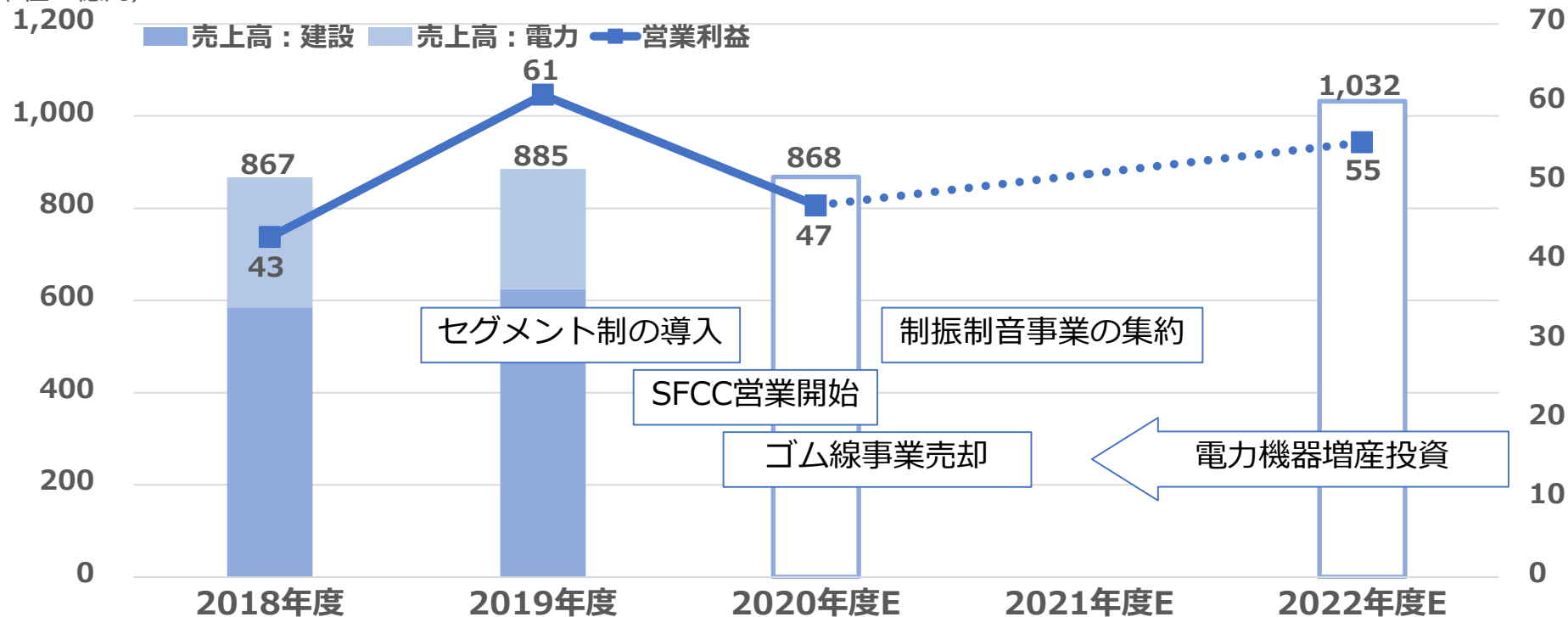


- 2017年12月:本店を港区虎ノ門から川崎市川崎区に移転
- 2018年 6月:社長に長谷川が就任。
中期経営計画「Change SWCC2022」推進
- 2018年12月:指名委員会・報酬委員会を設置
- 2019年 4月:コーポレートガバナンス体制の見直し
事業セグメント変更、執行役員制度の強化
- 2019年 6月:監査等委員会設置会社へ移行
- 2019年10月:昭和電線ユニマックを完全子会社化
- 2019年11月:**中計のローリングプラン公表**
- 2020年 4月:昭和電線ユニマックが多摩川電線を吸収合併
- 2020年 4月:古河電気工業とのJV販社SFCC営業開始
- 2020年 4月:人事制度改革 (新人事制度導入)
- 2020年 6月:ゴム線事業売却・譲渡契約の締結
- 2020年 9月:ダイジ解散 (岡山・山形工場閉鎖)
- 2021年 4月:制振制音事業を昭和サイエンスに集約
- 2021年 7月:ロジス・ワークスが昭和リサイクルを吸収合併
- 2021年12月:通信ケーブル拠点再編による青森昭和電線解散
- 2022年 3月:通信ケーブル事業構造改革完了
- 2022年 3月:昭和電線ケーブルシステム 海老名工場売却

エネルギー・インフラ事業の構造改革

電力事業のソリューションビジネスの拡大、再生可能エネルギー需要の取り込み
建設電販事業でのシェアアップと効率化

(単位：億円)



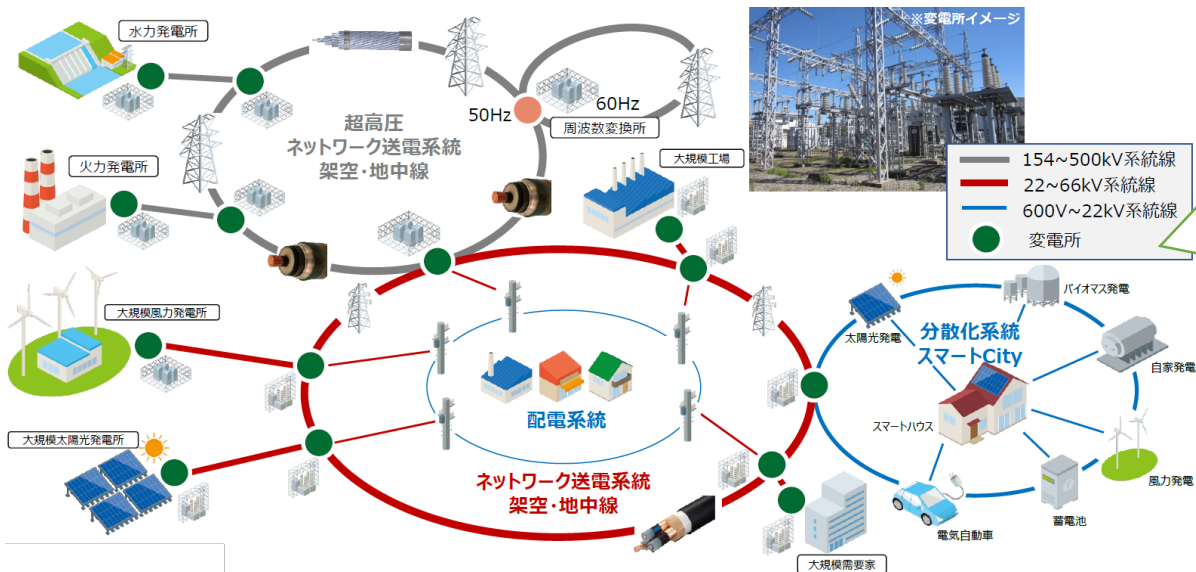
**NEXT
VISION2026**

電力インフラ事業の拡大
建設電販事業へのDX導入と効率化
免震・制振事業の競争力向上

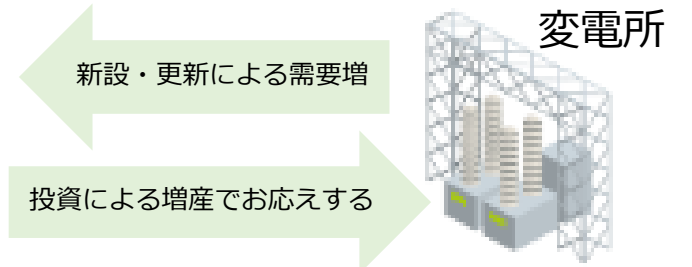
SICONEX®増産投資を決定 (2021.2.25プレスリリース)

電力市場におけるSICONEX®需要拡大を捕捉のため増産(1.5倍)投資を決定。
売上拡大と生産ラインの一新による収益改善策を実施。

- ①製造レイアウトの効率化 ②材料の一括集中管理システムの導入
 - ③製品・材料の工場内自動搬送 ④オートメーション化ならびにロボット導入による省人化
- 投資総額は20億円。2023年4月の完工を予定。



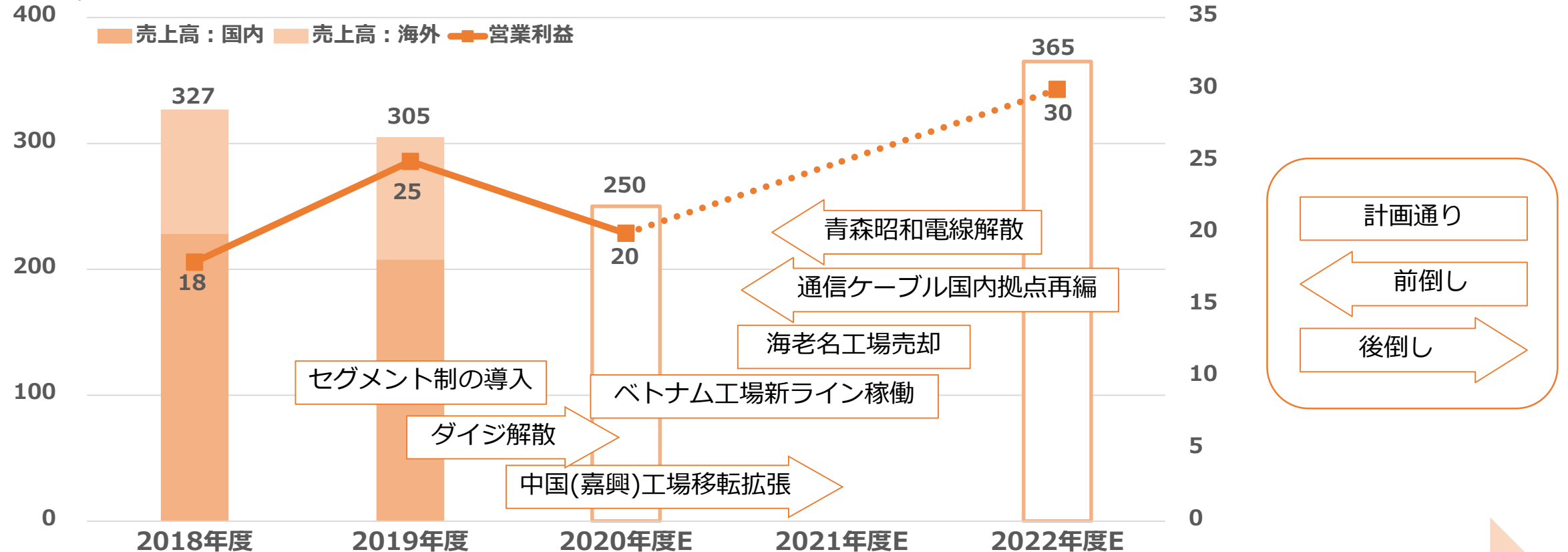
当社の電力事業は、主に**変電所**に向けたソリューション提供(ケーブル・**機器**・工事・保守)。
機器の主力製品である**SICONEX®**を増産し電力事業全体の収益力強化を図る。



通信・産業用デバイス事業の構造改革

国内生産の効率化と開発力の強化、海外への生産シフトと拡大、5G関連需要の取り込み

(単位：億円)

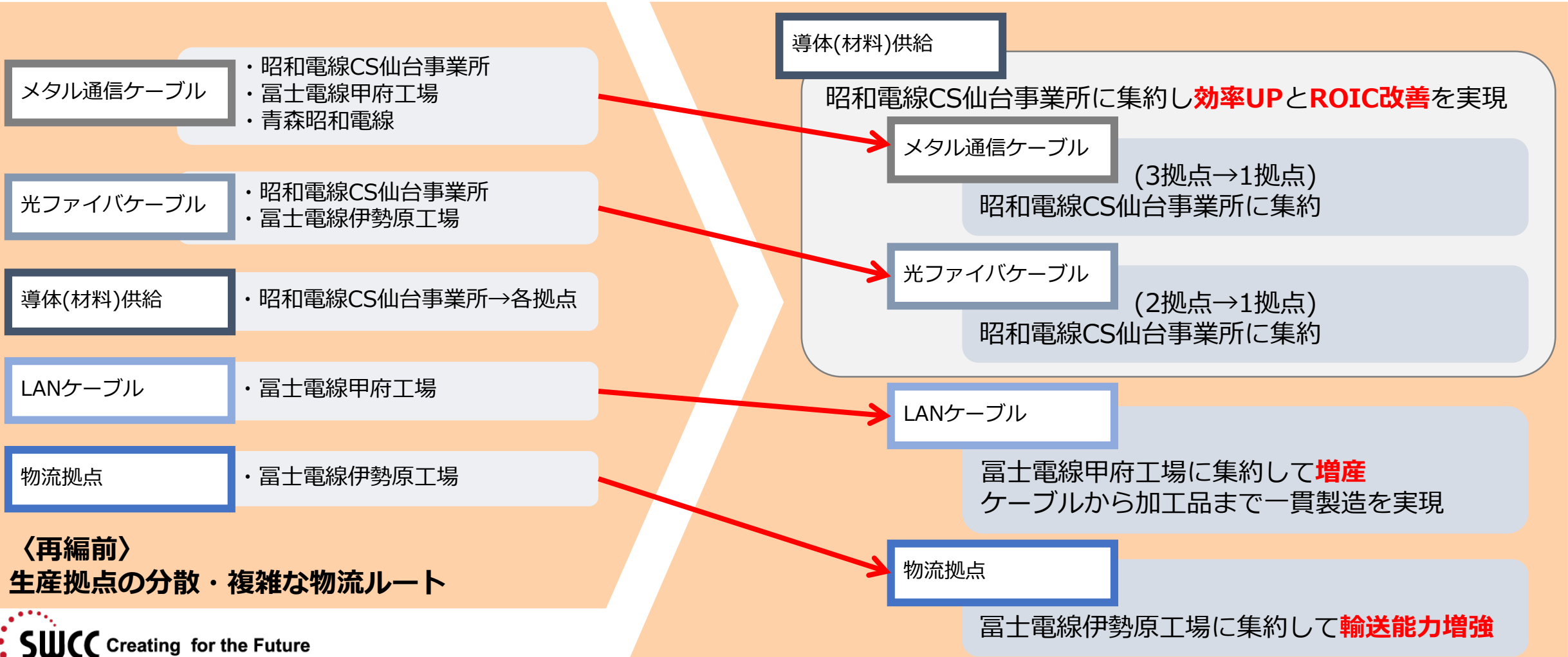


**NEXT
VISION2026**

データセンター需要の取り込み
ワイヤハーネス事業の拡大

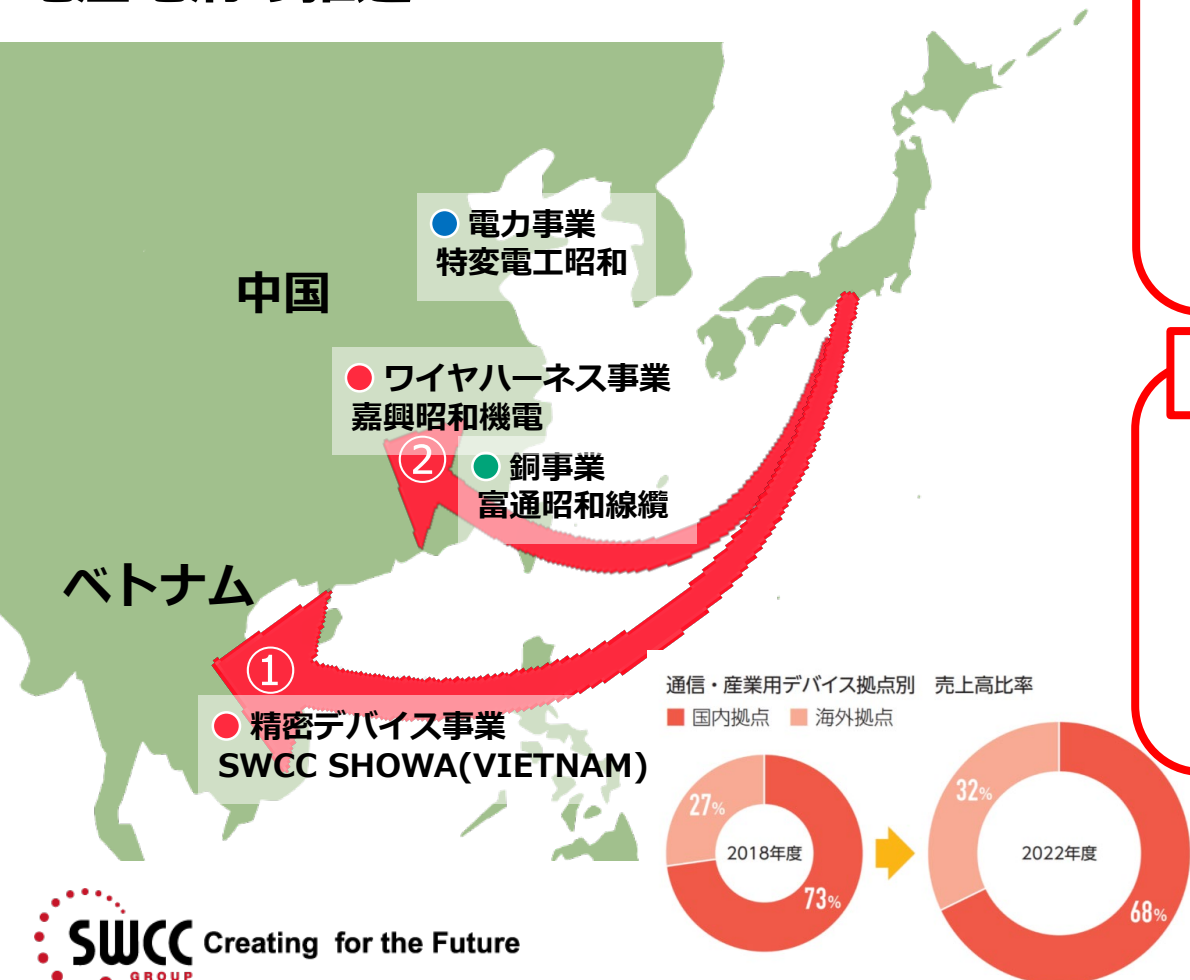
通信ケーブル事業の国内拠点再編 (2020.11.4プレスリリース)

総額14億円を投資し、通信ケーブルの国内拠点を4拠点から3拠点に集約・再編。開発・生産体制の効率化とサービス向上により、さらなる収益力の強化を図る。



海外の構造改革の進捗

サプライチェーンの分散
生産拠点の多元化
地産地消の推進



① 精密デバイス

2022年3月工場売却

昭和電線CS
海老名工場

生産移転

SWCC SHOWA
(VIETNAM)

2022年1月新ライン稼働

研究開発移転
投資
4億円

昭和電線CS
相模原事業所

② ワイヤハーネス

2020年9月解散

ダイジ

2020年9月
製造・開発移転

嘉興昭和機電

2021年12月新工場稼働
事業拡大を推進

2022年度売上高100億円

投資
16億円

2020年4月
国内販売業務

SDS

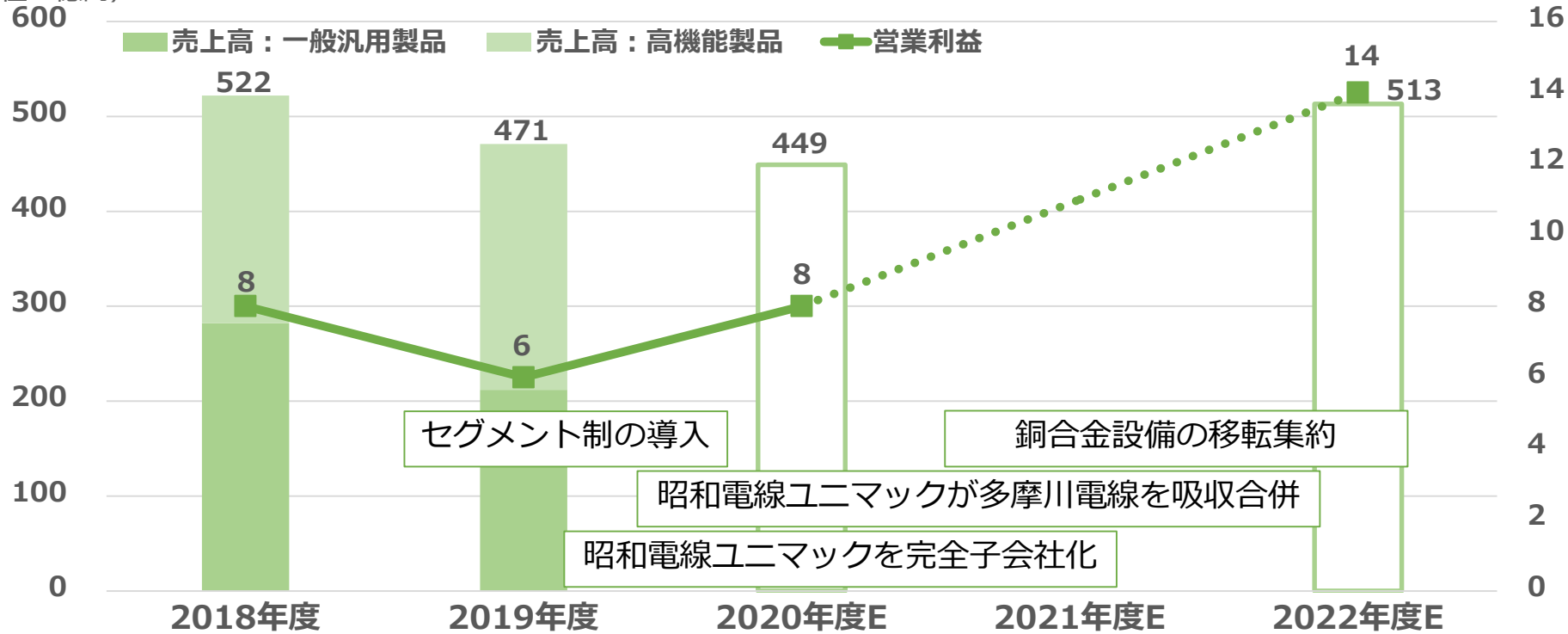
嘉興昭和機電
新工場完成予定図



電装・コンポーネンツ事業の構造改革

ポートフォリオの転換、高収益製品のシフト

(単位：億円)



セグメント制の導入

銅合金設備の移転集約

昭和電線ユニマックが多摩川電線を吸収合併

昭和電線ユニマックを完全子会社化

計画通り

前倒し

後倒し

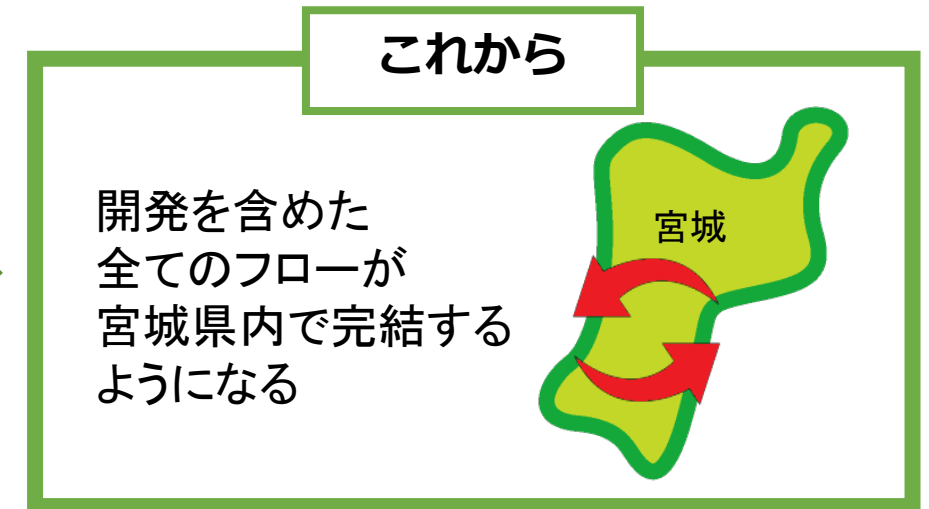
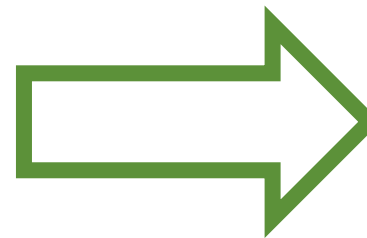
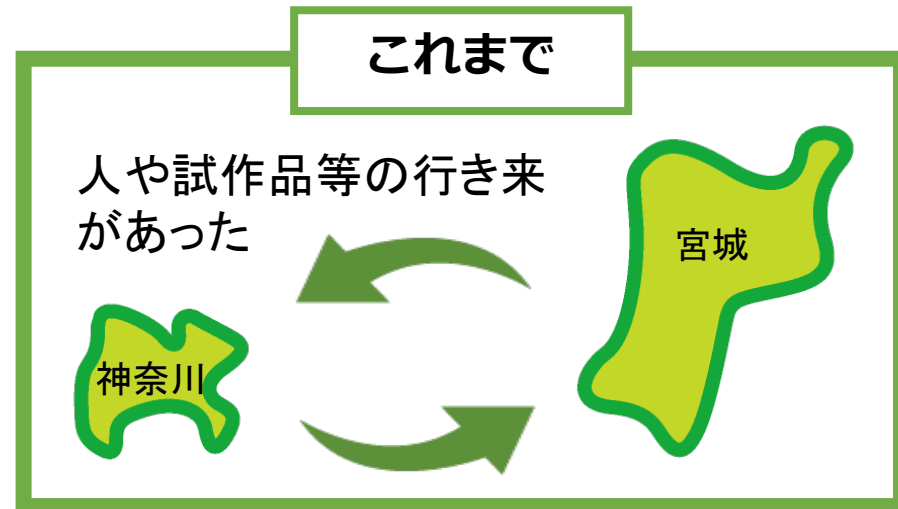
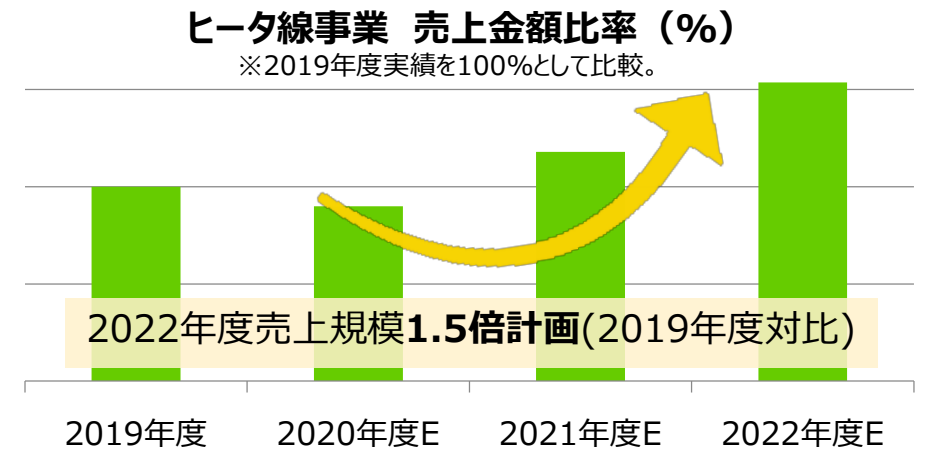
NEXT
VISION2026

車載(EV)需要拡大に向けた増産投資

合金事業の製品開発 (2020.8.7プレスリリース)

これまで昭和電線ケーブルシステムの相模原事業所(神奈川県)にあった金属材料開発部門を仙台事業所(宮城県)へ移転。

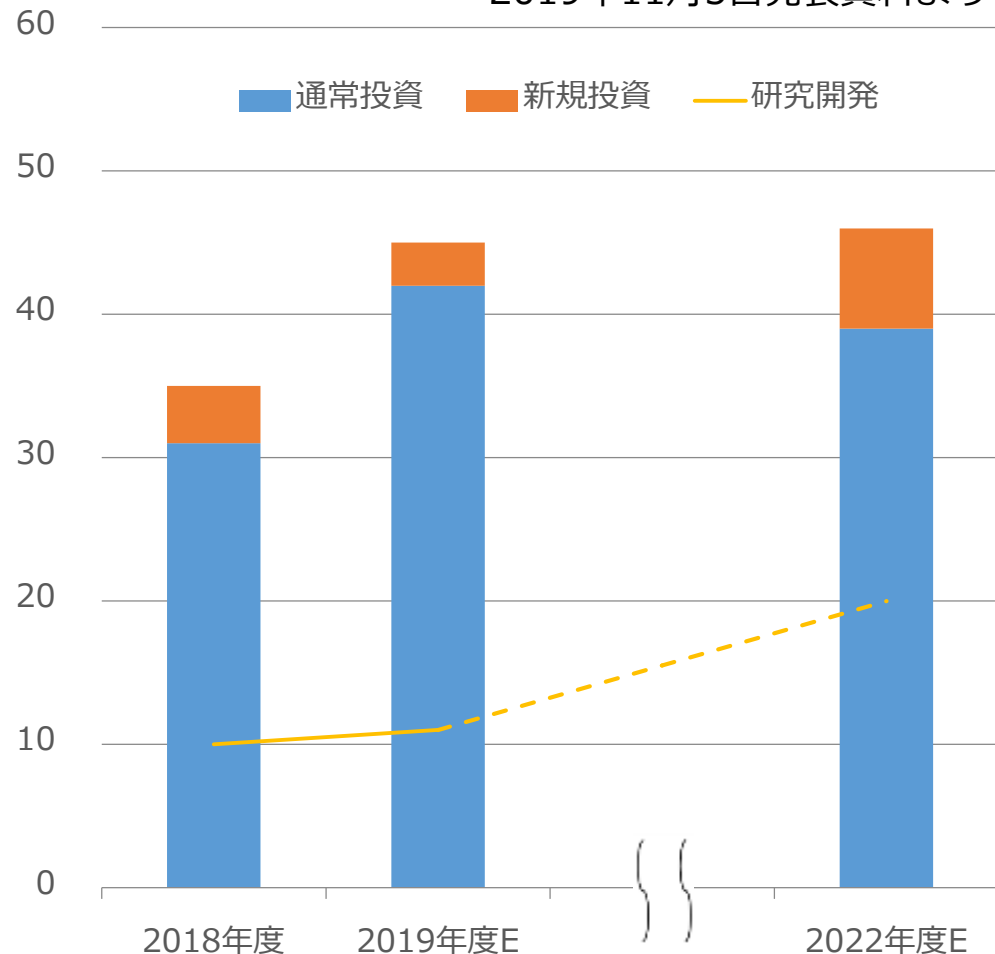
開発・製造・品質保証の拠点集約により、新製品開発や製品化までのプロセスを短期化。ヒータ線や半導体向け製品をはじめとする銅合金事業の加速と拡大を図る。



中計期間の投資（投資、研究開発）

(単位：億円)

2019年11月5日発表資料より



【投資】

2018年度実績 35億円

2020年度～2022年累計投資 **160億円**以上

内) 新規事業・海外事業強化累計投資 **30億円**以上

国内生産体制の強靱化累計投資 **25億円**

【研究開発】

2018年度実績 11億円

2022年度 **20億円**

新規事業創出、新製品開発

オープンイノベーション

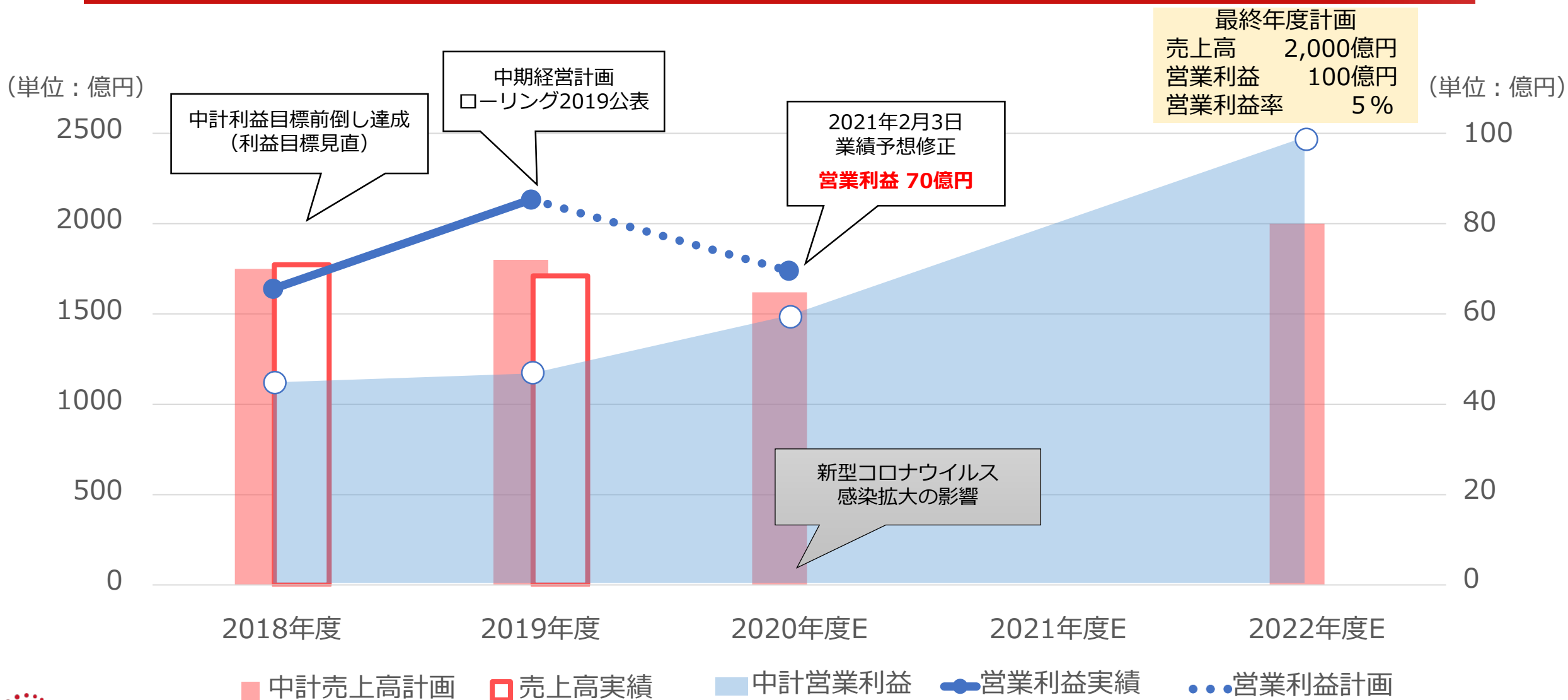
【前倒し施策】

- ・ SICONEX®増産投資
- ・ 通信ケーブル国内拠点再編
- ・ MiDIP®増産に向けた設備改修

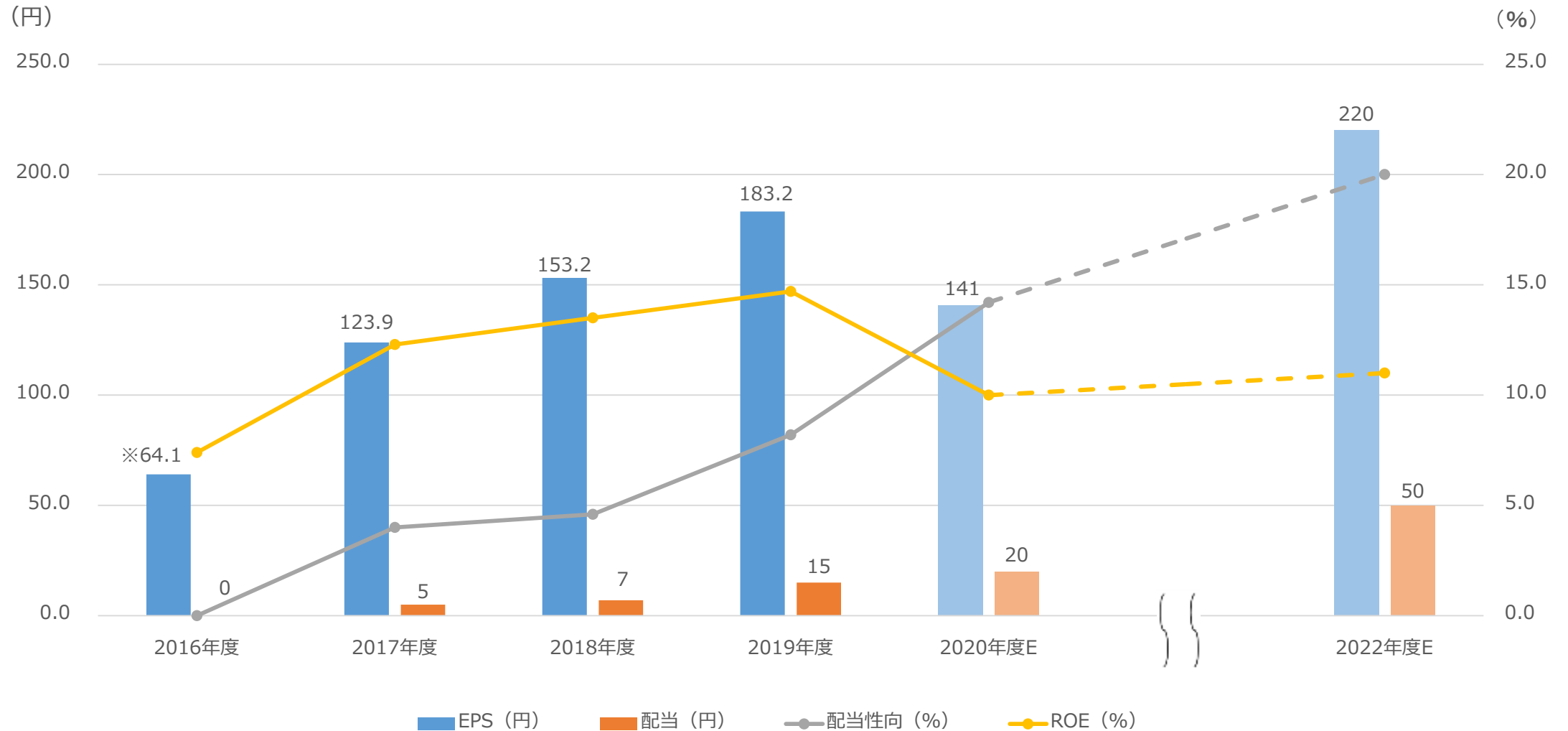
【後倒し施策】

- ・ 中国新工場(嘉興昭和機電)拡張移転

中期経営計画「Change SWCC2022」業績



株主還元（配当政策） & ROE 計画



※株式併合を実施しており、グラフは併合後の数値で作成。

中期経営計画 数値目標 (KPI)

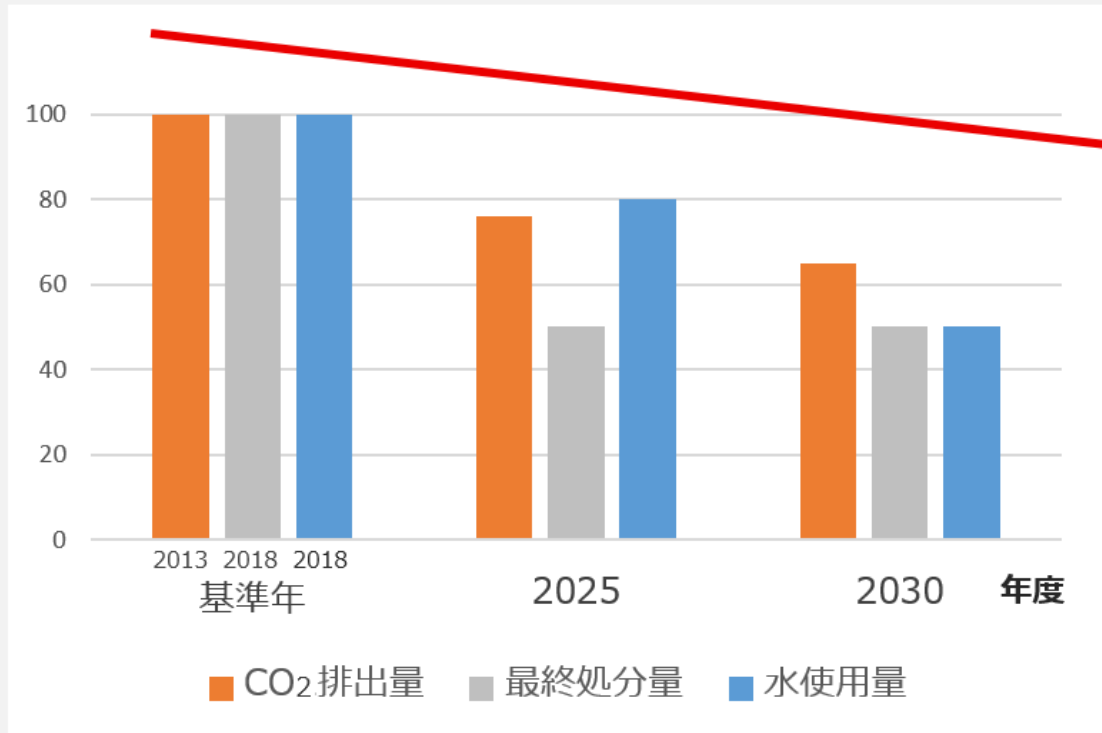
(単位：億円)	2019年度 実績	2020年度 計画	2022年度 中期経営計画	VISION 2026
売上高	1,711	1,620	2,000	2,100
営業利益	86	70	100	150
経常利益	79	70	95	150
親会社株主に帰属する 当期純利益	55	42	66	100
営業利益率	5.0%	4.3%	5%以上	7%以上
配当/配当性向	15円 (8.2%)	20円 (14.2%)	50円以上 (約20%)	120円以上 (約35%)
有利子負債	423	385	380以下	300以下
DEレシオ※	107%	90%	70%以下	40%以下
純資産	400	445	550以上	800以上
自己資本比率	32.3%	35%	38%以上	50%以上
ROE	14.7%	10%	10%以上	10%以上
ROIC	7.3%	5.1%	7%以上	9%以上

※DEレシオは自己資本で算出

SWCCグループの環境計画 『Green Plan 2050』

持続可能な社会づくりを目指し、2050年環境負荷ゼロをキーワードに、長期ビジョンおよび2030年目標を掲げています。

1990年よりCO₂排出量、2001年より最終処分量・水使用量の削減に取り組み
2021年2月12日「第7次環境自主行動計画(2021～2025年度)」を公表



環境負荷ゼロ
2050

長期ビジョン(2050)

地球温暖化防止

- CO₂を排出しない製品 またはカーボンニュートラルな製品の実現
- 環境課題解決製品の創出

資源有効活用

- 資源の持続可能な利用の推進
- 最終処分量(埋立量)ゼロの実現

水資源の有効活用

- 水資源の持続可能な利用の推進

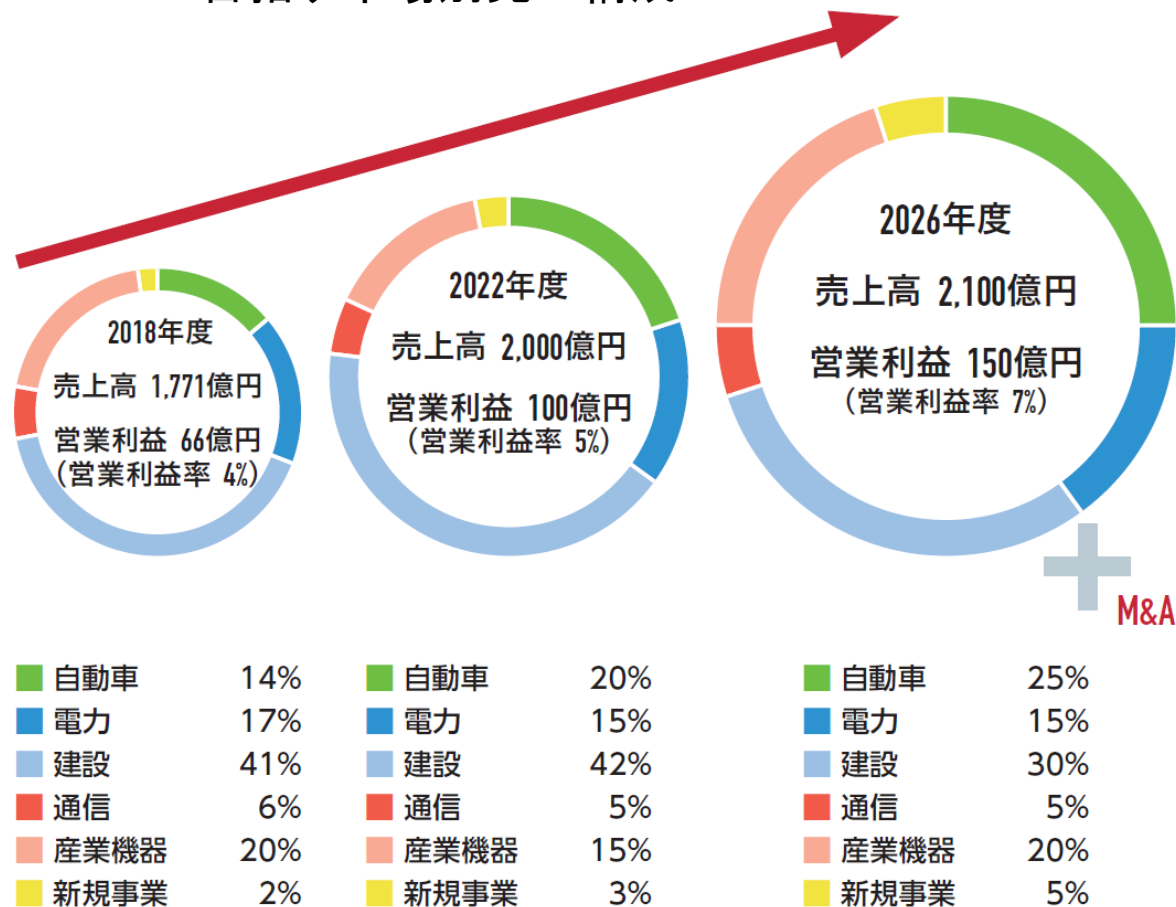
VISION2026 & 目指す市場別売上構成



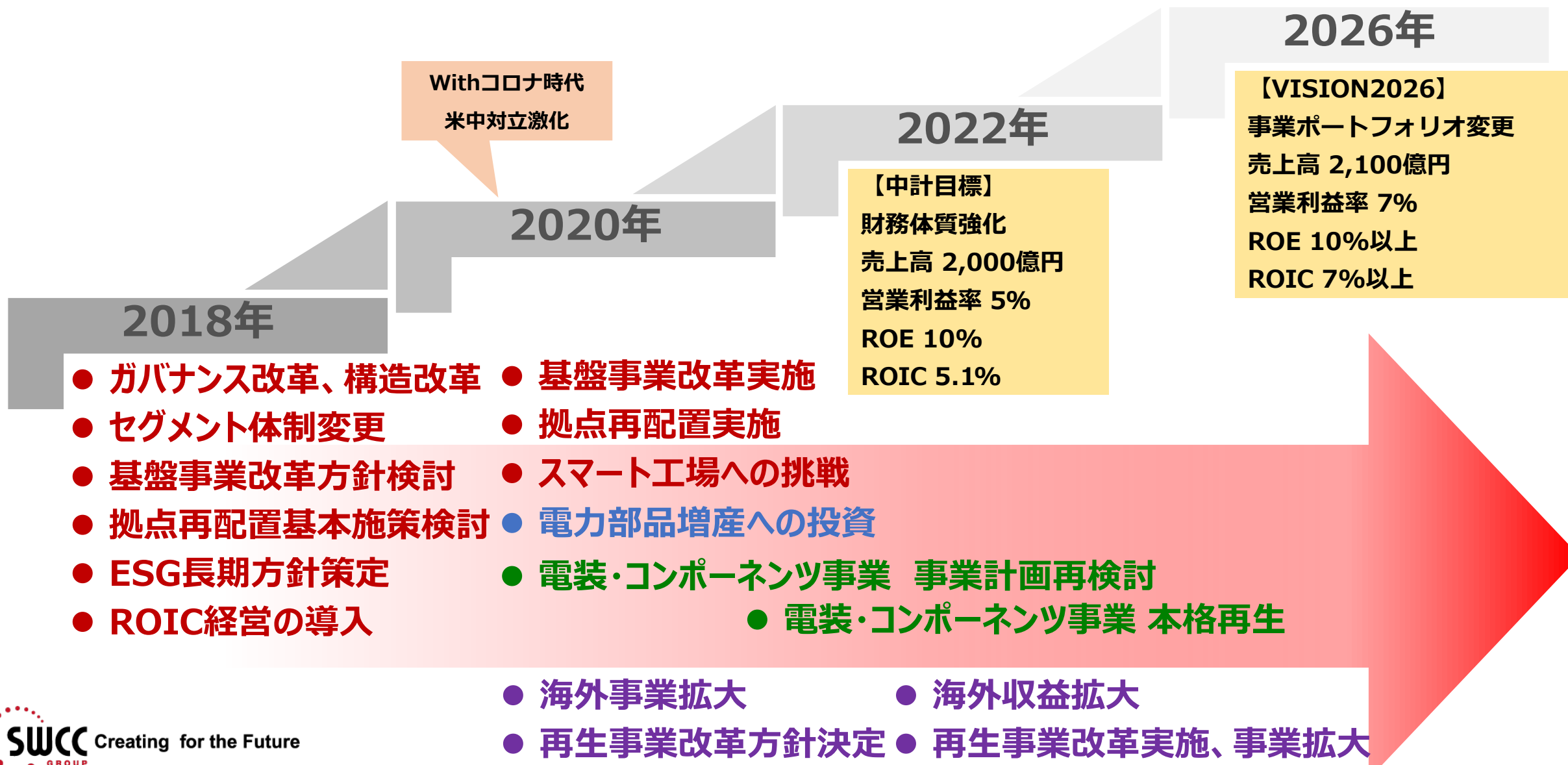
Change SWCC2022



■ 目指す市場別売上構成



VISION2026に向けてのマイルストーン





Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

<Appendix>
セグメント別戦略



<https://www.swcc.co.jp>

エネルギー・インフラ事業

【目指す姿】

国内向けインフラ事業（電力・建設用電線・免震）にてNo.1のトータルサービスを提供し続ける

【電力インフラ】

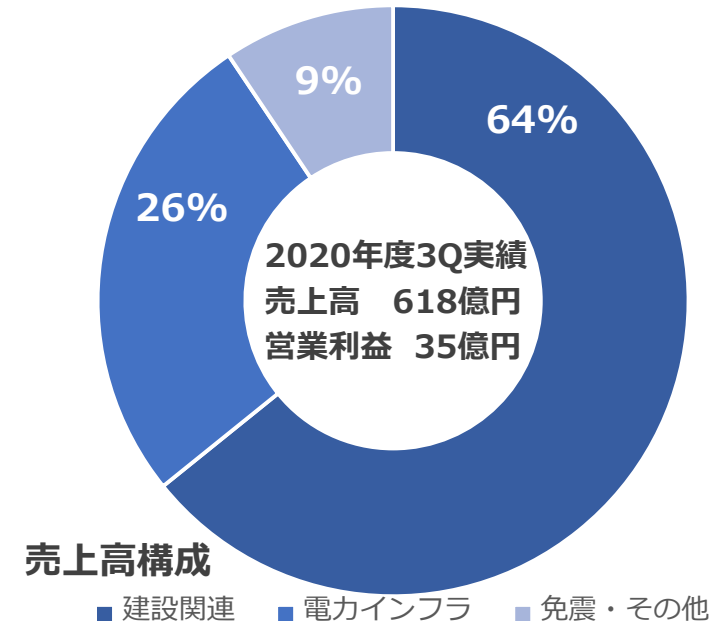
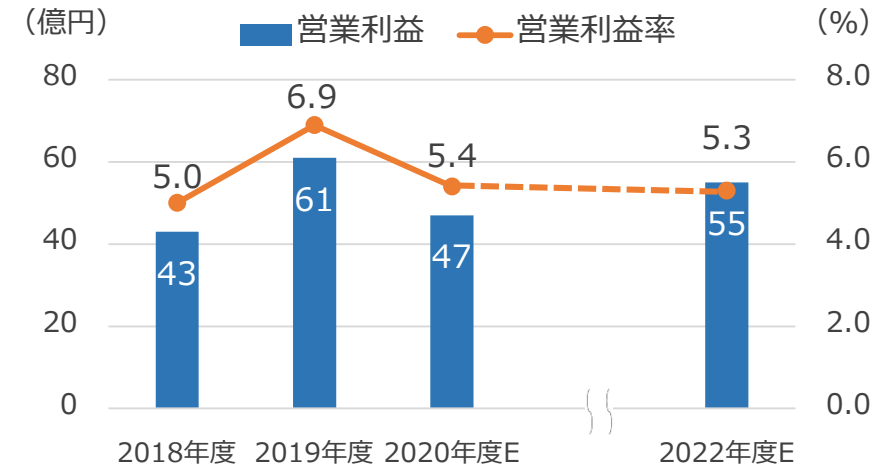
当社独自の電力機器部品「SICONEX®」を中心に、ケーブル・工事・部材のソリューション提供により国土強靱化対策、再生可能エネルギー連系強化需要の取込み。施工力強化と新技術により事業拡大。

【建設用汎用電線】

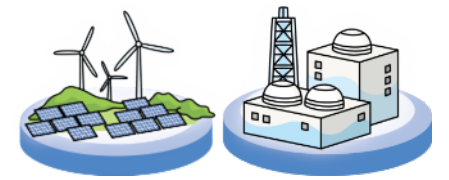
古河電気工業との合併販社であるSFCCの設立により、シェアアップと効率化による収益力強化。

【免震】

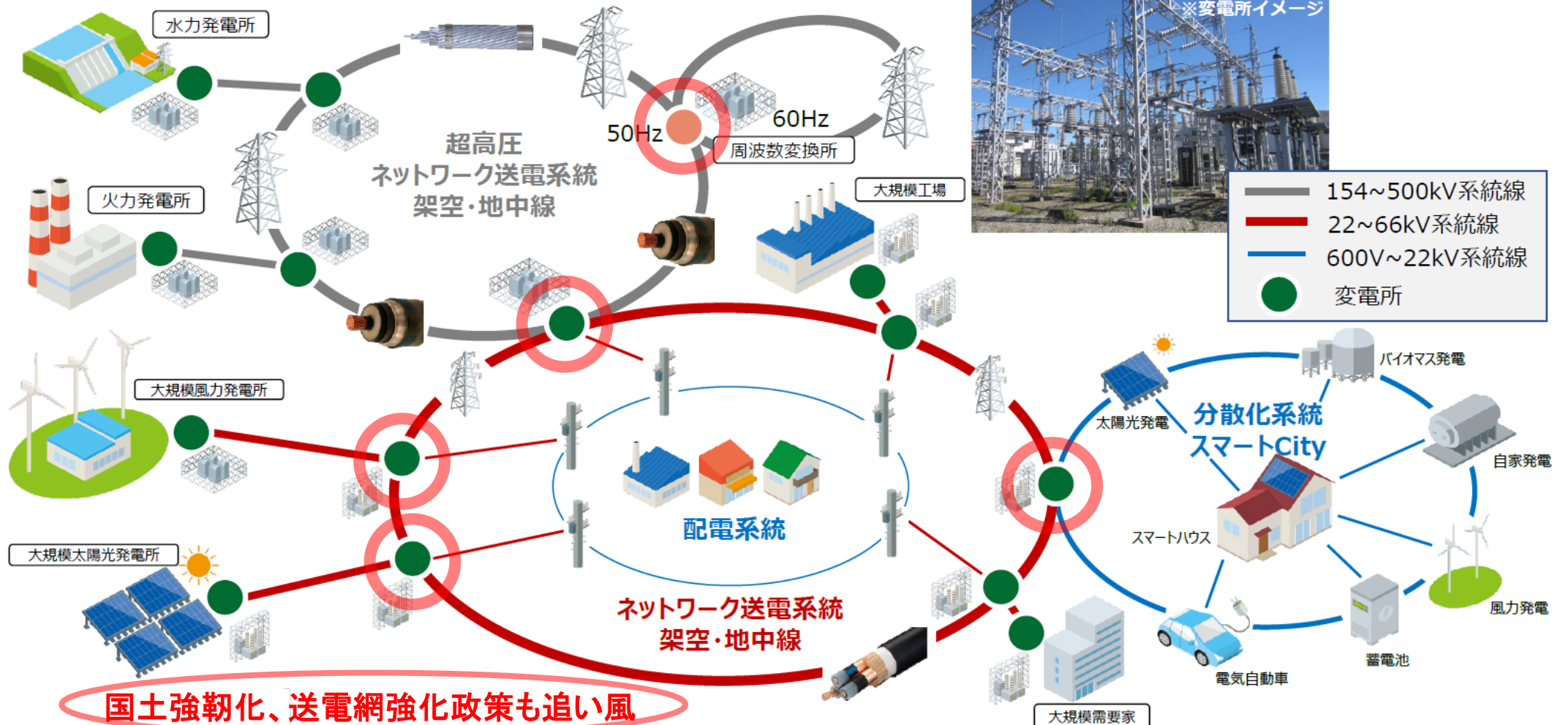
パートナーシップ強化による競争力向上と免震化率向上のための普及活動推進。



電力インフラのビジネスモデル

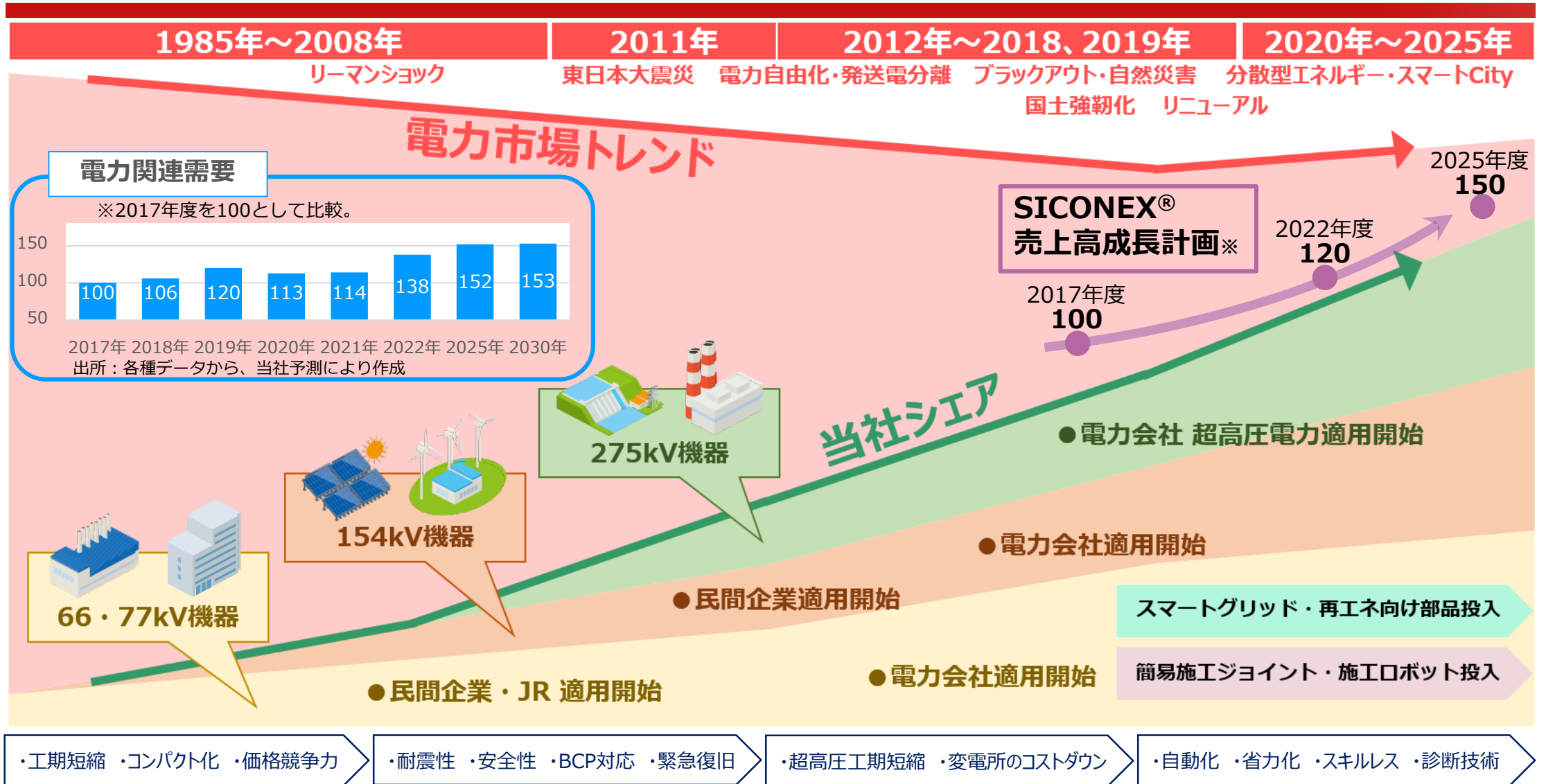


- 従来の超高圧ケーブルの長さを必要とするビジネスから、当社独自製品のSICONEX®を活用した変電所や再生可能エネルギーの系統連携のためのケーブル・部材・工事のソリューションビジネスへ転換



国土強靱化、送電網強化政策も追い風

電力インフラでの **SICONEX** シェア拡大



通信・産業用デバイス事業

【目指す姿】

5G、インダストリー4.0によりグローバルに成長し続ける情報通信市場において、顧客ニーズに合致した製品提供で信頼されるベストパートナーとなる

【通信ケーブル】

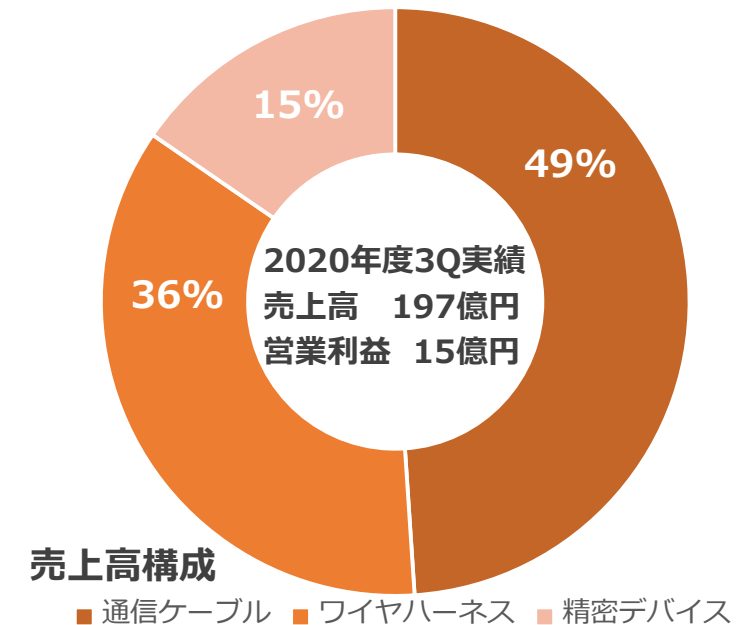
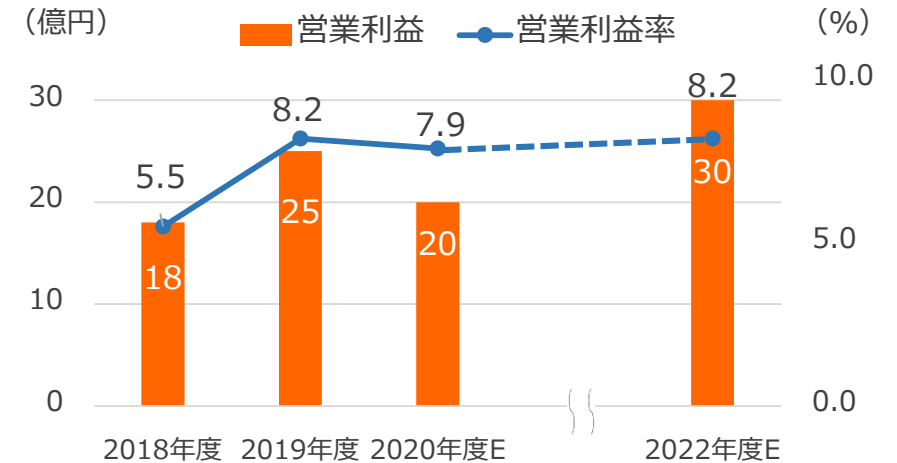
国内の5Gサービス開始、DX促進需要に対応したLANケーブル等の高付加価値製品の増産と拡販。

【ワイヤハーネス】

グループでの拠点効率化推進中。中国の嘉興昭和機電有限公司の工場新設とともに開発・製造拠点として拡大準備中。

【精密デバイス】

パートナー企業との連携強化と国内製造をベトナムの製造拠点に集約・拡大。



通信インフラ増強整備への対応

■ 総務省：ICTインフラ地域展開マスタープラン

Society5.0を支える5G等によるICTインフラ整備支援策と、5G利活用促進策を総合的に実施

■ 文部科学省：GIGAスクール構想

児童生徒向け学習用端末の1人1台使用と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する構想

■ 遠隔医療の普及に向けた増強

オンライン診断、リモート医療などの普及に向けたIT環境整備の実施

LANケーブルの増産

2022年度までに40%の増産計画
(2017年度対比)



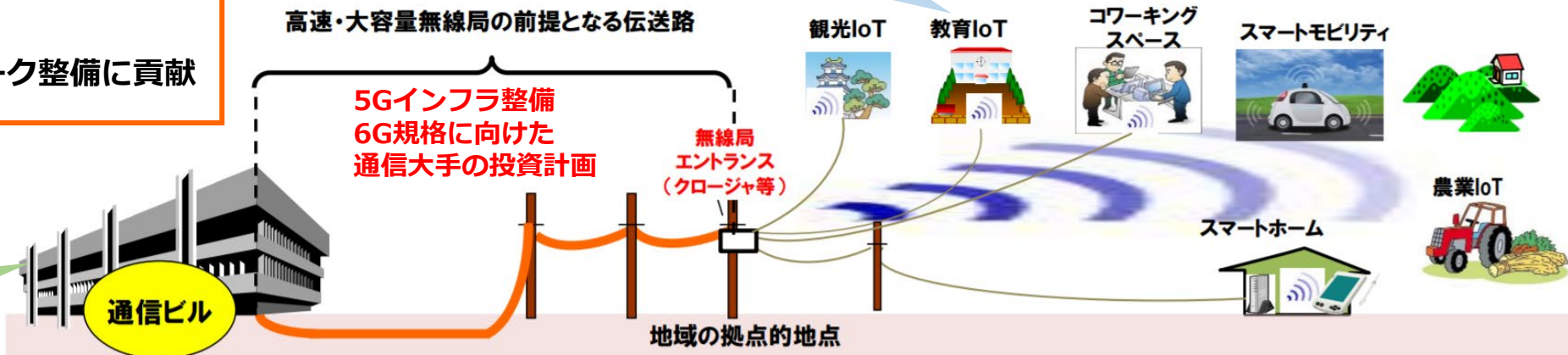
LANケーブル

光ケーブル

With コロナ
新たな生活様式への通信ネットワーク整備に貢献



ネットワーク機器



電装・コンポーネンツ事業

【目指す姿】

高い性能が求められる車載分野向け巻線の販売量比率を拡大しつつ、自動車のCASEに対応するため、積極的に設備投資を行ない高収益を目指す

【高機能線材】

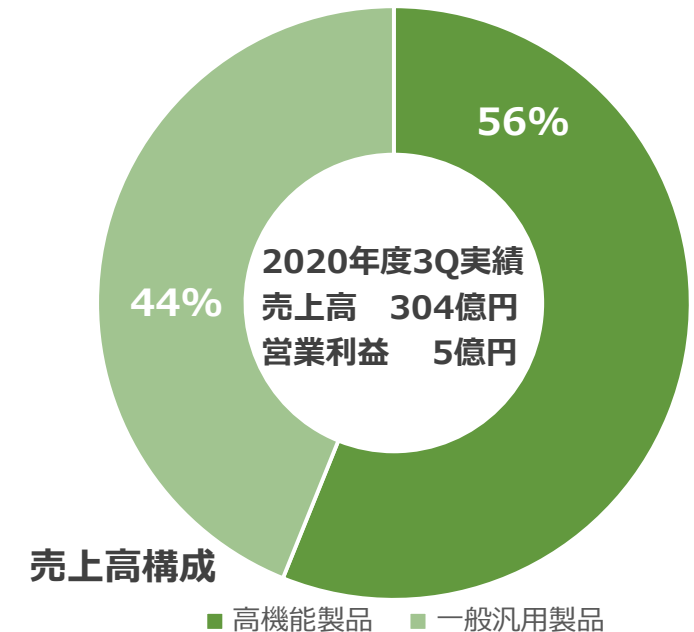
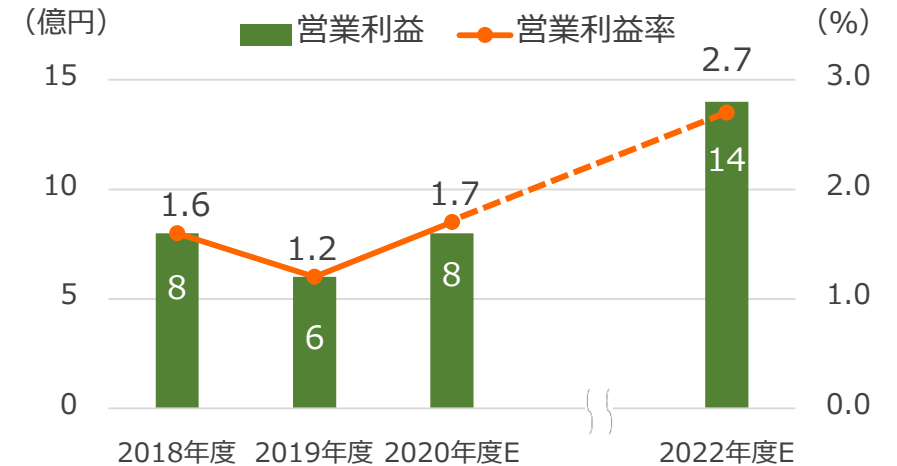
環境配慮型自動車の需要拡大に向けた高機能無酸素銅MiDIP®、車載用巻線の製造体制の強化。

【銅合金】

国内の開発・製造拠点を宮城県に集約。モビリティ向けヒータ線や医療用リード線等の新製品開発の加速と事業拡大を推進。

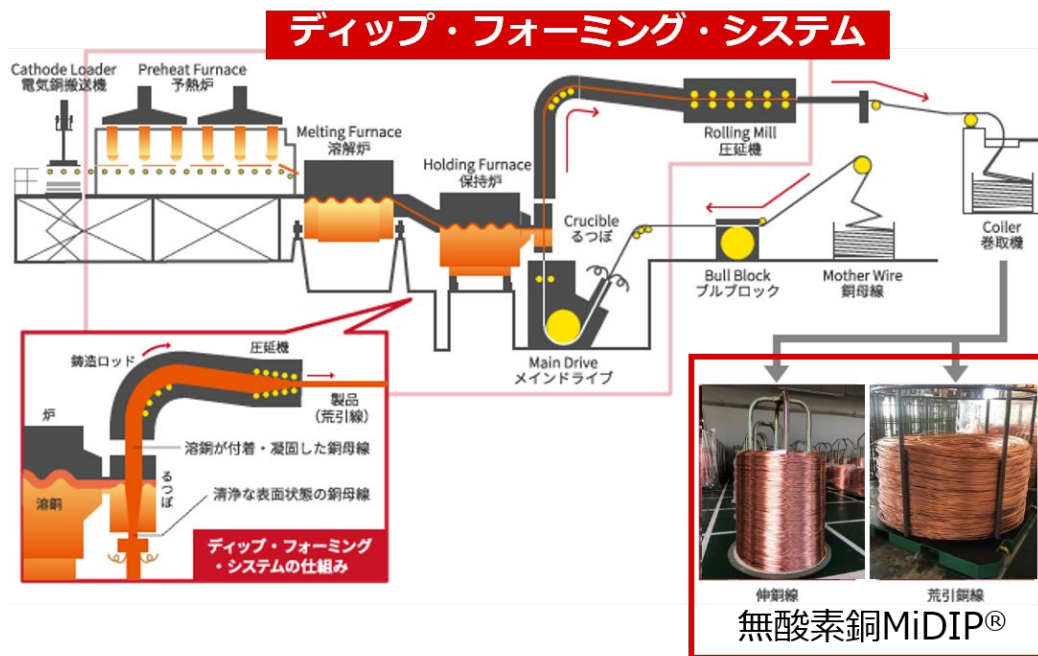
【汎用巻線】

国内巻線事業の再編による効率化と海外パートナーとの協業によるグローバル展開の推進。



無酸素銅 MiDIP®

当社独自の製造方法で作る無酸素銅の銅線



	無酸素銅 MiDIP®	無酸素銅	タフピッチ銅
酸素含有量	◎	○	△
導電率	◎	○	○
加工性 (曲げ、細線)	◎	○	△

モーター用のコイル等に使われ、環境配慮型自動車やPC・スマートフォンなどの電子機器に利用される

日本で唯一の製造設備のため、同じグレードを他社で実現することは不可能

安定した高品位を長尺で製造することが可能で、特に自動製造ラインでの加工に適している

新規事業

【目指す姿】

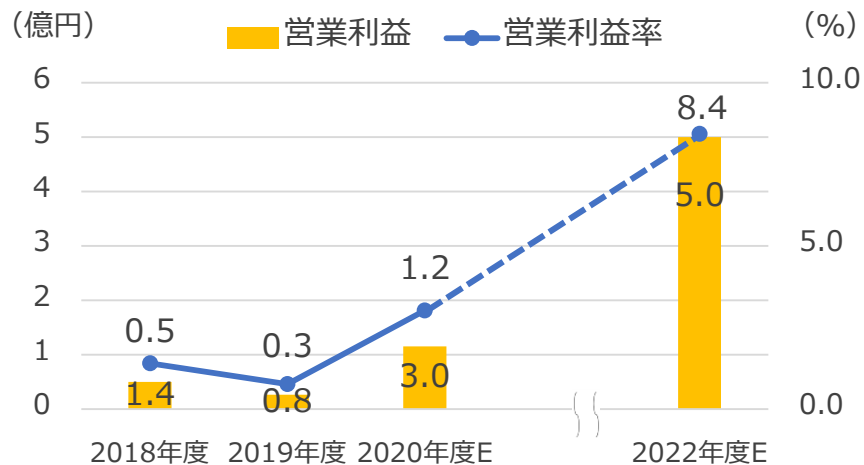
コア技術の活用と創造力を活かした製品で、
スマート社会の実現に貢献する

【モビリティ分野】

環境対応で必要となる車両の軽量化、これを実現する細径・軽量の高強度合金電線などを提供。
また、ADAS・自動運転に必要となる大容量通信を実現する、車載用高速通信ケーブルを開発。

【スマートインダストリー分野】

遠隔医療・医療情報システムや、高精細医療映像システムに不可欠な高速ネットワークを支える配線部材の提供。
加えて、次世代ヘルスケアの実現として、ロボット医療・介護、ディスプレイ分野に必要とされる製品の技術開発。



モビリティ



自動車(EV)、鉄道車両、バイク、ドローン、無人搬送

スマートインフラ



5G、データセンター、エネルギーシステム、超電導

スマートインダストリー



産業機器、医療、事務機器

次世代自動車（モビリティ分野）

脱炭素社会実現に向けて急速に変革するEVシフトや自動運転などCASE実現に貢献する製品を昭和電線のコア技術を活かして開発・提供

EV（電気自動車）

駆動用
モータ

インホイール
モータ



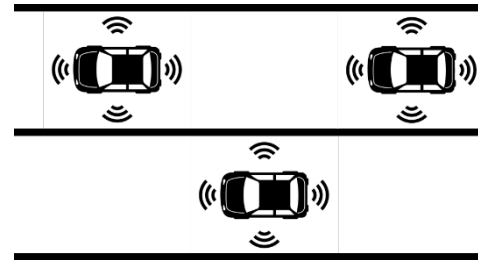
車載用
ヒーター

車載用
バッテリー

ADAS・自動運転

車載カメラ

LiDAR

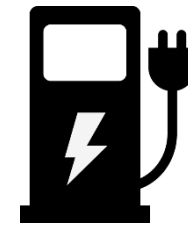


車載
ネットワーク

センサ・ECU
(電子制御)

充電インフラ

充電
ステーション



ワイヤレス
給電

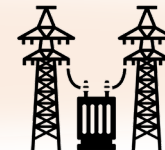


スマートシティソリューション

通信インフラ

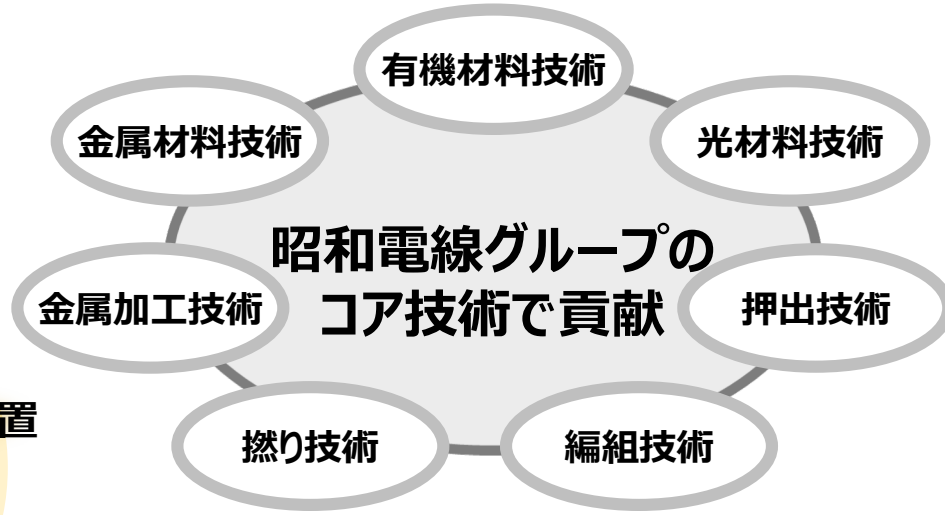
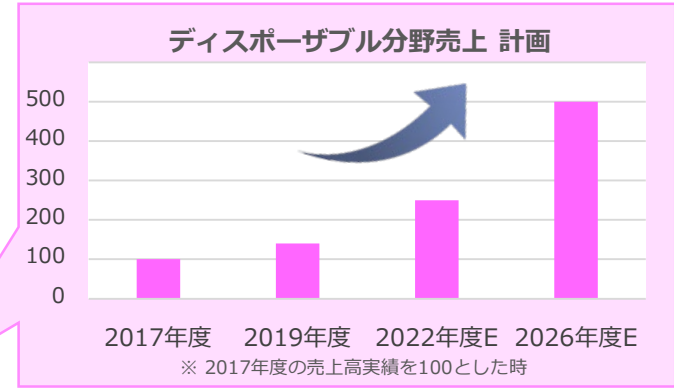


電力インフラ



ヘルスケア（スマートインダストリー分野）

医療用機器・病院インフラ分野から、需要拡大が見込める
 ディスポーザブル分野・医療IT分野へシフト



医療機器分野



病院インフラ分野



ディスポーザブル分野



医療IT分野



ディスポーザブル分野や
 IT分野に注力

AI、IoT、TOC（制約理論）を融合したスマートファクトリーの構築



レベル
1

デジタル化

2020年4月(@茨城工場)
受注から配送までのデジタルデータ
一元管理



レベル
2

ネットワーク化

レベル
3

クラウド化

ロボット導入による省人化

2020年7月(@海老名工場)
精密デバイス製造工場の一部で
無人化実現

レベル
4

無人自動製造ライン 究極の最終形を目指す

レベル
5



全社へ展開するための次世代を担う人財育成

さまざまな改革推進プロジェクトがグループ各社に広がりを見せている

ESGの取り組み（統合報告書）

Environment(環境)

- ・環境計画「Green Plan 2050」の策定
- ・日本政策投資銀行「DBJ環境格付」
2年連続最高ランク取得



Social(社会)

- ・子育てサポート企業「くるみん」の取得と「健康経営優良法人2020(大規模法人部門)」の認定
- ・従業員の選抜教育、リベラルアーツ教育の充実化
- ・新型コロナウイルス感染予防対策の徹底とWithコロナにおける「新しい業務習慣ガイドライン」の制定
- ・カワスイ川崎水族館オフィシャルサポーターに登録

Governance(ガバナンス)

- ・指名・報酬・監査等委員会の設置による監督機能の強化
- ・譲渡制限付株式報酬制度の導入
- ・リスクマネジメント体制の再構築

2020年9月30日

「昭和電線グループレポート 統合報告書2020」を発行いたしました。

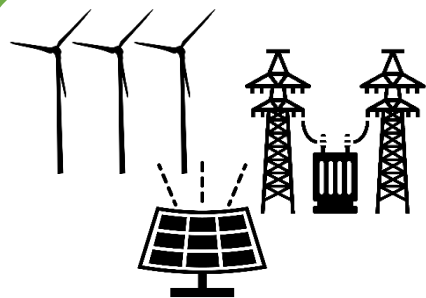
<https://www.swcc.co.jp/environment/download/index.html>



昭和電線グループは持続可能な開発目標(SDGs)を支援する活動に取り組んでいます。

グリーン化とデジタル化に貢献するSWCCグループ

SWCCグループの製品・技術で世界のこれからの貢献します



再生可能エネルギー

- ・ SICONEX®
- ・ 連系工事
- ・ 保守メンテナンス 他

超電導ケーブルシステム

- ・ 三相同軸ケーブル
- ・ 冷却システム
- ・ 系統監視技術 他



グリーン化

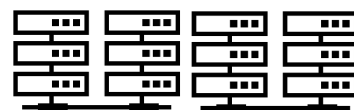
CASE(環境対応車)

- ・ MiDIP®(無酸素銅)
- ・ 車載用アルミケーブル
- ・ 高速伝送ケーブル 他



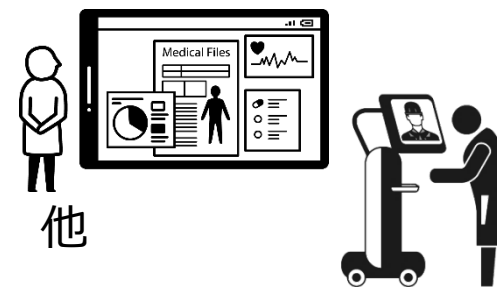
データセンター

- ・ e-Ribbon®(光ファイバー)
- ・ Cat6A LANケーブル
- ・ 免震アイソレータ 他



デジタルヘルス

- ・ 電子カルテシステム
- ・ 認証ネットワーク
- ・ ロボット用配線部材 他



デジタル化



スマート物流

- ・ 最適車両の活用
- ・ 配送の効率化 他



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

<Appendix>
プレスリリース情報



<https://www.swcc.co.jp>

超電導ケーブル実用化への取組み (2020.11.11プレスリリース)

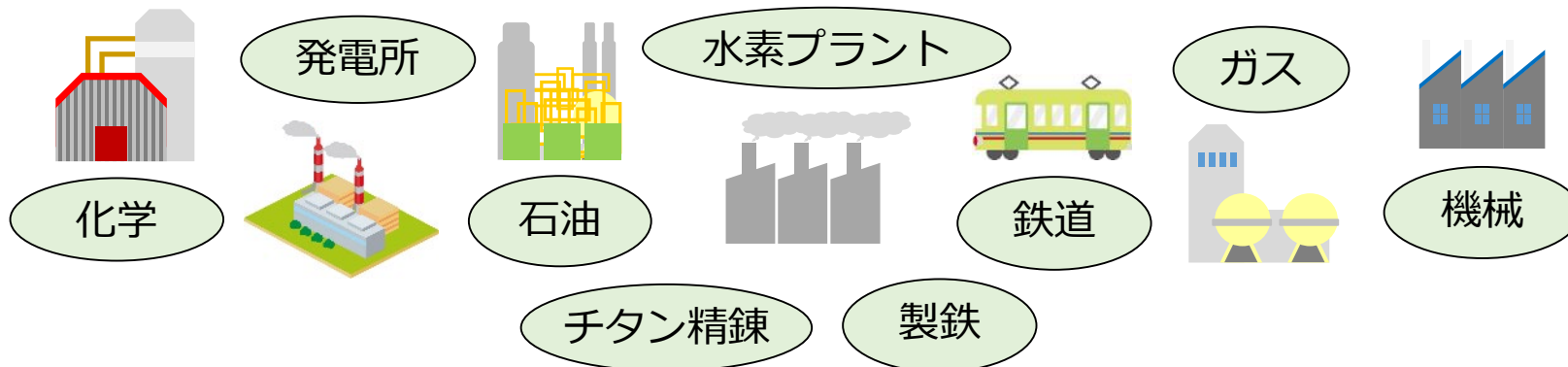
BASFジャパン（株）戸塚工場で超電導ケーブルシステムの実証試験を開始 (NEDO 戦略的省エネ事業)

送電ロスを95%以上軽減し
省エネルギーを実現

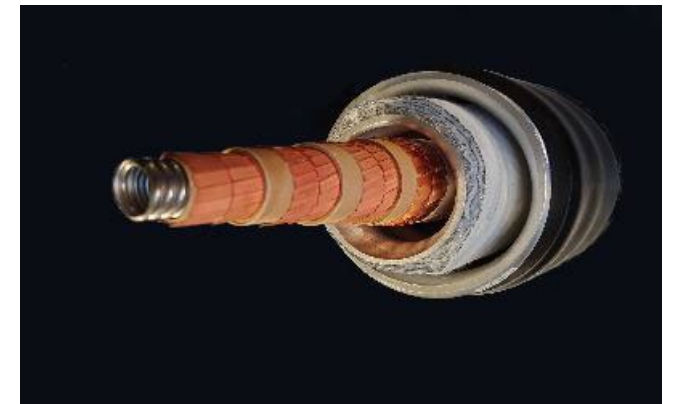
冷却時に排気する窒素ガスは
プラントに戻して利用

資源を無駄にしない省エネルギーシステムの構築

ターゲット市場



三相同軸電導ケーブル



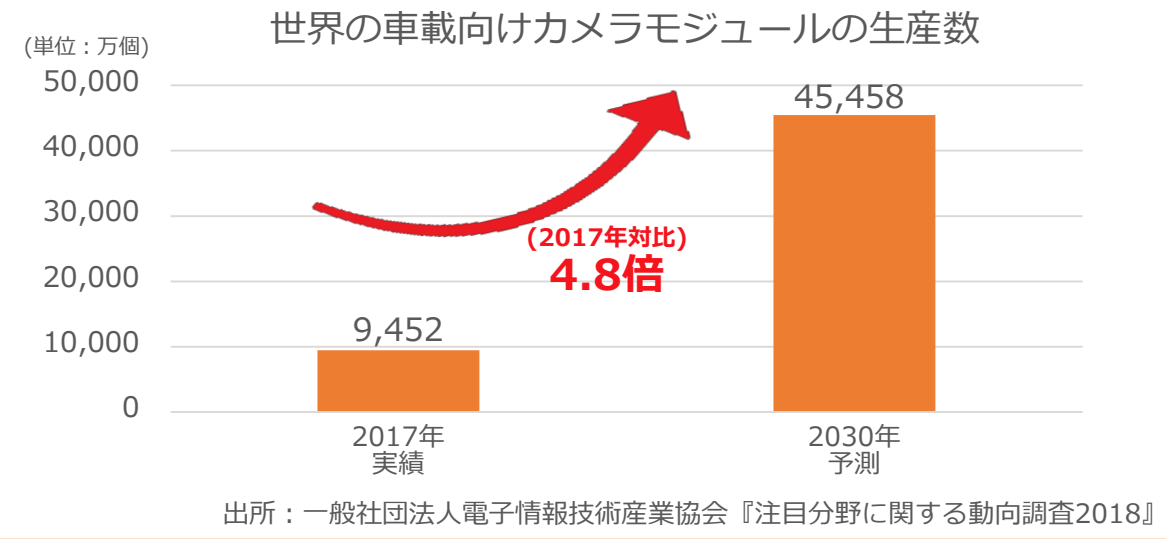
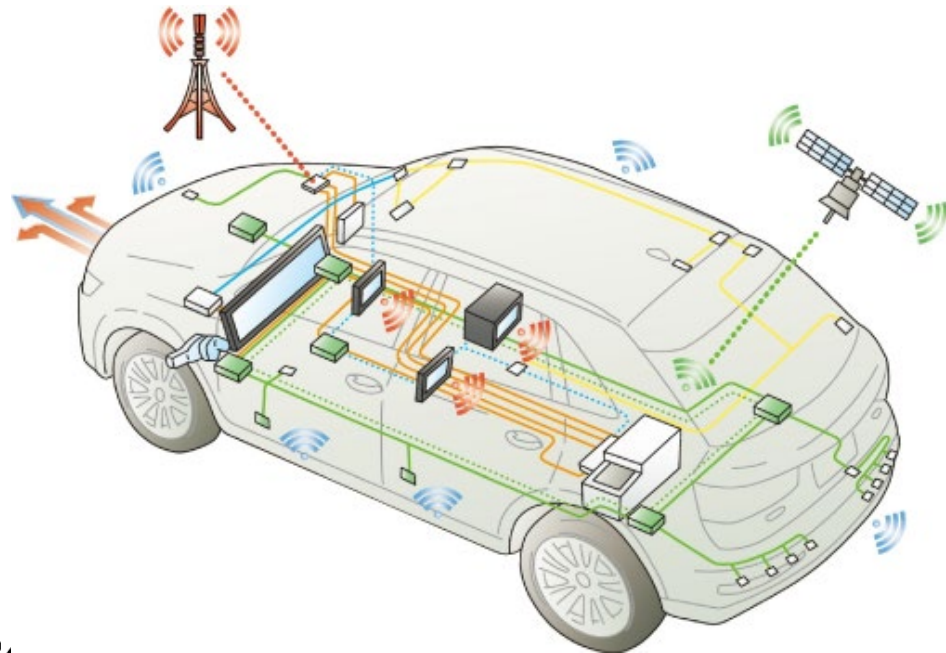
車載用ツイストペアケーブルの開発 (2021.2.9プレスリリース)

自動運転技術に欠かせないカメラ・センサ等に利用される車載用通信ケーブルを開発
伝送できる情報量の多さ、伝送スピード、耐久性を実現し、最新の規格※に適合

- ・最新の規格※における要求を超える性能を実現 規格上の周波数帯4GHz < 当社製品周波数帯10GHz
- ・自動車市場への参入を目指す当社の起爆剤に

2021年内に市場参入し、2022年から量産化

車載コネクタメーカーやTier1へ販売していく



新型コロナウイルス対応

2020年5月25日制定

国内では地域ごとに5段階での危機管理レベルを設定 「職場における新たな業務習慣ガイドライン」を制定

- 5段階の危機管理レベル対応の明示
- グループ全社連絡網の活用（緊急連絡アプリで対応）
- 全従業員がアクセスできるWeb会議システム導入
- 感染者の差別禁止、個人情報保護
- 本ガイドラインに関する教育の実施 等

対策を強化

2021年1月の緊急事態宣言を受けて

- 緊急事態宣言対象地域の**出社率50%から30%**への低減を目指す
(事業所、工場、物流センター、工事関連事業を除く)
- 新しい生活習慣に基づき感染防止対策を徹底
- 不要不急の**外出は極力自粛**し、WEB会議システムの活用を推奨
- 従業員の**体温管理の徹底**
- 外来者の方への**検温のお願い**
- 社内外問わず、**会食は禁止** 等



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）
事業戦略統括本部経営企画部
TEL：044-223-0520
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

<https://www.swcc.co.jp>



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。